

みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

昭和61年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



千葉県立美術館全景

目 次

ご あ い さ つ	1
沿革・運営方針	2
管 理 運 営	3
機 構	4
予 算	6
収 蔵 資 料	7
施 設	10
享 業	14
常 設 展	15
特 別 展	20
企 画 展	24
県 芸 術 祭	27
団 体 展	29
教育・普及	33
事 業 一 覧	42
利 用 状 況	44
作品貸出一覧	45
刊行物一覧	45
日 誌 抄	46
関係法令等	47
昭和62年度展覧会等	49
利 用 案 内	50

ごあいさつ

昭和61年度における千葉県立美術館運営の実態を年報として取りまとめましたので、お届けします。

本館は、昭和49年の開館以来の方針であります“みる・かたる・つくる”のそれぞれを、三位一体のものとして、総合的に展開して、県民の美の広場の確立に努めております。

本年度も、地域に密着した美術館として、まず、房総関係作家の展覧会「富取風堂展」を開催し、その画業を顕彰しました。また、近代美術館として、優れた美術作品を鑑賞する機会を提供するため、国際的視野に立った外国作家の作品を紹介する特別展「ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち」を開催しました。本年は、更に本県出身の国際的版画家浜口陽三の特別展も実施しました。

一方、館が収蔵する作品の展示については、一層の充実・強化に努め、館における常設展を3期にわたりテーマ別に開催するとともに、館外における移動展覧も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、企画展・特別展等に関連づけて美術講演会、美術館夏季大学、美術を語る会等を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座も、入門講座・研修講座に分けて実施し、増加の一端をたどる県民の美術創作への意欲に対応してまいりました。

館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得つつ、コレクションの体系化とその充実に努めてきました。

館の諸活動が活発化するに伴い、施設々備の拡充が内外から望まれていましたところ、本年度において明るい見通しを得、収蔵庫・展示室・機械室等の設計が行われまして、大きな前進をみました。

このような館の着実な歩みをみるにつけ、脳裏から離れないのは昨年末における糸賀副館長急逝のことです。常に渾身の力をこめて館のために尽力いただいた有為な人材の夭折を心から哀惜して止みません。後に残った職員一同は、これからもなお一層、親しまれ愛される美術館づくりに努めていく所存であります。

今後とも関係諸機関及び各団体並びに県民の皆様の御指導と御支援をお願いいたします。

昭和62年3月

千葉県立美術館長

平 野 馨

沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基き、建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟が完成した。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)

昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される

昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する

昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)

昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想なる

昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる

代案として千葉市中央港埋立地が提示される

昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する

昭和47年3月31日 基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)

昭和47年7月31日 展示棟 第1期工事の実施設計完了する

昭和47年9月21日 展示棟杭工事着工

昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される

昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる

昭和48年11月30日 管理棟(第2期工事)の実施設計完了する

昭和49年3月31日 展示棟建築工事竣工

昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する職員14名

昭和49年10月23日 開館記念式典を行う

昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める

昭和50年2月21日 管理棟杭工事着工

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される

昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和51年2月10日 管理棟建築工事竣工

昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する

昭和51年6月7日 寄付によって、正面玄関に植栽を行う

昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示をはじめる

昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する

昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる

昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する

昭和53年10月17日 債務負担行為によって美術普及棟建築予算がつく

昭和53年11月18日 浅井忠像 完成除幕式

昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する

昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する

昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される

昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和55年2月29日 県民アトリエ棟建築工事竣工

昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会

昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する

昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する

昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する

昭和58年12月31日 屋外展示場の園路及び彫像台座工事の一部が完成する

昭和61年3月25日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化

昭和61年4月10日 入口門扉4ヶ所設置

昭和61年4月23日 美術館西側沿道寄りの生垣植栽

昭和61年8月12日 講堂浸水防止工事

運営方針

- 県民のための美術館として、明るく親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある作家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

管理運営

当館の運営方針“みる・つくる・かたる”に基づき積極的に活動し、県民のための美術館として推進してきた。

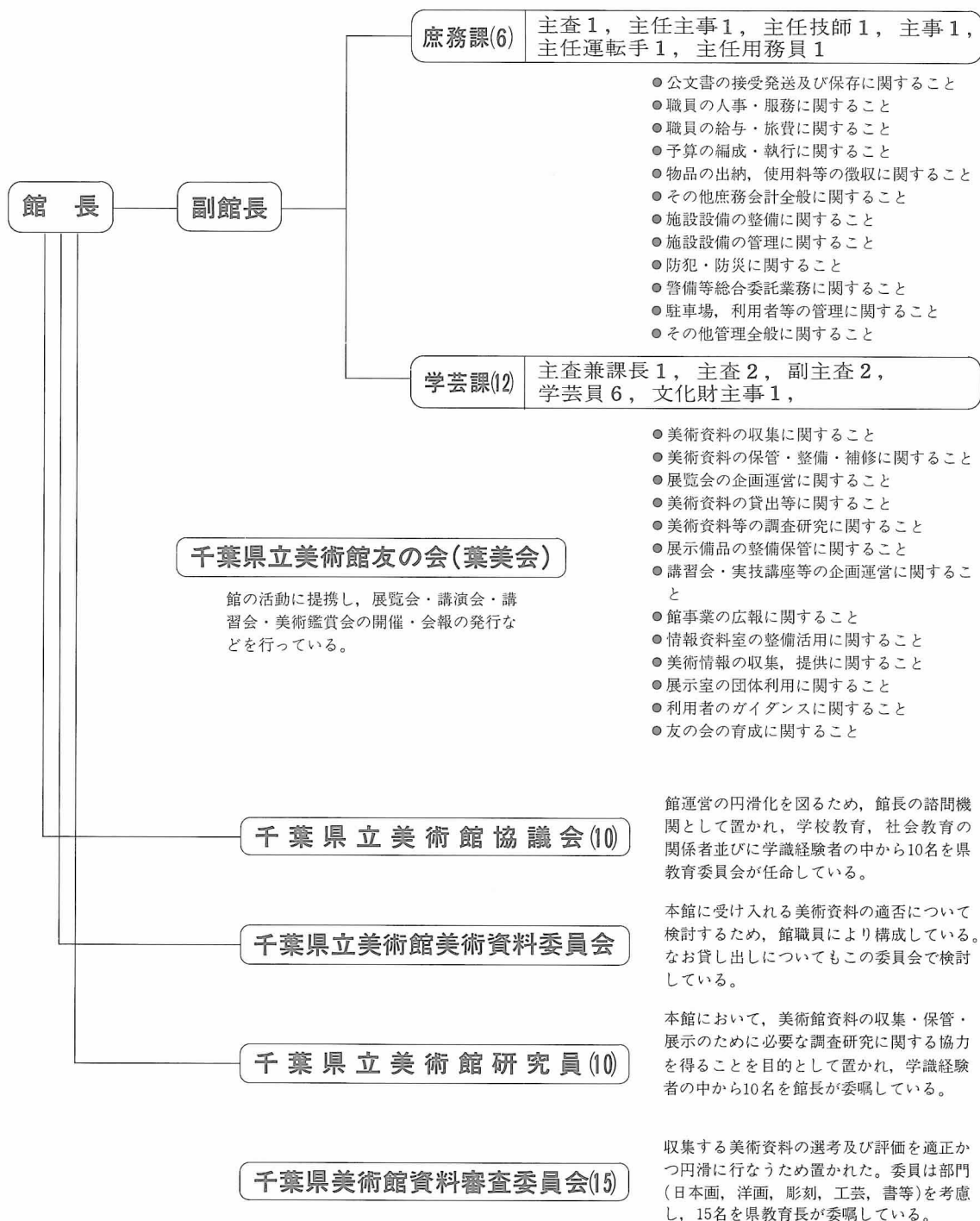
美術館研究員が研究を重ねてきた浅井忠の従征画稿も刊行した。

一方資料収集については、日本画29点、洋画24点、彫刻4点、工芸13点、書1点を新たに収蔵した。

施設整備の面では、環境整備と施設管理を考慮し、空熱交換機の架台交換、食堂にクーラーを設置すると共に、各展示室、採光窓の補修、7室の結露防止や各入口に門扉の設置、西側沿道寄りに生垣植栽工事、並びに講堂の浸水防止工事等を積極的に実施し、併せて、第8展示室、収蔵庫、機械室の増築に伴う基本・実施設計を行った。

機 構

組織及び事務分掌（62.3.31現在）



職 員

館 長 平 野 馨
副 館 長 糸 賀 茂 夫（61.12.3 死亡退職。以後欠員）

庶 務 課

主 査 林 康 高
主 任 技 師 岩 瀬 隆 司
主 任 主 事 一 杉 徹
主 事 渡 辺 和 子
主任運転手 篠 原 恒 雄
主任用務員 長 島 則 子

学 芸 課

主査兼課長 中 村 哲
主 査 中 地 昭 男
" 鈴 木 喜 久 夫
学 芸 員 米 田 耕 司
" 大 久 保 守
" 藤 川 正 司
" 小 泉 幸 代
" 相 川 順 子
副 主 査 高 村 照 夫
" 飯 村 洋 子
文化財主事 田 坂 浩
学 芸 員 金 田 雅 成
非常勤嘱託 小 高 正
(61.4.1～61.9.30)

千葉県立美術館協議会委員

氏 名	役 職
石 田 好 徳	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会会長
遠 藤 健 郎	画 家
国 松 実 枝 子	船橋市教育委員
郡 司 幹 雄	千葉県文化財保護審議会副会長
笹 岡 了 一	千葉県美術会会長
鈴 木 民 三	千葉県立美術館友の会会長
高 橋 恒 三	和洋女子大学常務理事
戸 田 禎 佑	東京大学教授
野 口 貞 子	千葉市婦人グループ連絡会役員
牧 田 茂	白梅学園短期大学教授

(五十音順，敬称略)

千葉県立美術館研究員

氏 名	役職・勤務先等	氏 名	役職・勤務先等
池 田 伊 予	千葉市立越智中学校教諭	田 邊 宏	勝浦市立興津中学校教諭
石 倉 総 子	千葉市立こてはし台中学校教諭	平 戸 美和子	千葉市立源小学校教頭
加曾利 和 夫	千葉市立高洲第二中学校教頭	南 隆 一	横芝町立横芝中学校教諭
佐 藤 修	栗源町立高萩小学校教頭	村 田 哲 朗	東京芸術大学美術学部教育資料編纂室
高 木 正	佐原市立新島小学校教頭	綿 貫 啓 一	船橋市企画部情報管理課副主査

(佐藤 修 62.3.7 死亡欠員)

(五十音順，敬称略)

予 算

昭和61年度予算概要

(単位：千円)

事 業 名		予算額	事 業 概 要
運 営 費	展示事務費	29,116	特別展 2 企画展 2 常設収蔵作品展
	普及事業費	6,064	実技講座・講演会の実施等 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費	380	資料調査，研究員会議等
	維持管理費	105,967	施設管理，設備・機械保守委託 その他運営費
施 設 整 備 費	備品購入費	48,000	美術資料 美術図書 展示用備品 視聴覚備品 食堂冷房装置
	委 託 費	27,400	作品修復 講堂改修工事設計監理 収蔵庫・展示棟増築実施設計
	工 事 費	14,300	講堂改修工事 入口門扉設置工事 生垣植栽工事
合 計		231,227	

注) ○職員の人件費は含まない。

○別に資料購入のための基金 2 億円。

収 蔵 資 料

収蔵資料（昭和62年 3 月 31 日現在）

収蔵別内訳

種別	区分	保管換	購 入	寄 附	合 計
日 本 画		24	70	108	202
洋 画		36	210	281	527
彫 刻		10	51	23	84
工 芸		9	61	37	107
書		14	15	35	64
版 画		3	85	46	134
合 計		96	492	530	1,118
研 究 資 料		73	128	1,217	1,418

昭和61年度新収蔵作品一覧

日 本 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質・形 状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	石 井 林 響	春	不詳	絹・墨・着彩	各126.2×41.4	購入
2	"	嵐	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
3	"	葦と白鳥	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
4	"	達磨	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
5	"	竹花鳥	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
6	"	櫻	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
7	"	冬景色	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
8	"	夏山	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
9	"	釣人	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
10	"	白衣の老人	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
11	"	老人と船	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
12	"	寒山拾得	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
13	"	崖に向かう老人	不詳	絹・墨・着彩	20.2×25.0	購入
14	"	葦に老鳥	不詳	紙・墨・着彩	133.3×30.7	購入
15	"	弁財天	不詳	紙・墨	径28.0	購入
16	"	松に鴉	不詳	紙・墨	128.0×31.0	購入
17	"	蘇武	不詳	紙・墨・着彩	32.3×44.0	購入
18	"	山水	不詳	絹・墨	34.5×22.3	購入
19	"	舟遊図	不詳	紙・墨・着彩	134.6×32.6	購入
20	"	唐獅子	不詳	紙・墨・着彩	58.9×74.0	購入
21	"	山水図	不詳	紙・墨・着彩	32.7×58.6	購入
22	関 主 税	晨	昭和59	紙・着彩	208.5×154.0	購入
23	渡 辺 阿以湖	牡丹	昭和61	紙・着彩	130.5×96.8	購入
24	大 田 歳	北海	昭和54	紙・着彩	166.0×212.6	購入
25	稲 木 皓 人	更衣	昭和48	紙・着彩	170.0×203.0	購入
26	斎 藤 惇	五台山大白塔	昭和61	紙・着彩	215.0×170.0	購入
27	五十嵐 幹	華	昭和51	紙・着彩	170.0×217.5	購入
28	木 島 桜 谷	雨中山水之図	不詳	絹・墨	53.2×181.0	寄附
29	大 田 歳	有明	昭和43	紙・着彩	171.0×228.0	寄附

洋 画

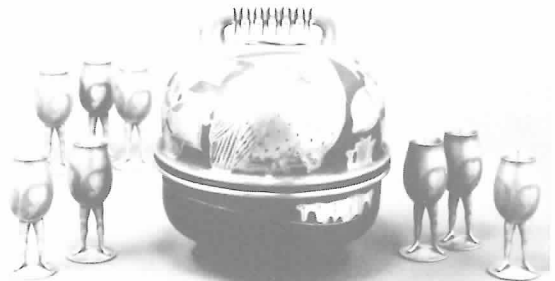
番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅井 忠	農 家	明治35	紙 ・ 水 彩	29.0× 44.0	講 入
2	丸山 晚霞	長 野 水 内 風 景	明治31	紙 ・ 水 彩	27.0× 46.0	講 入
3	石川 欽一郎	水 辺	明治末	紙 ・ 水 彩	23.7× 32.3	講 入
4	小山 周次	ば ら	昭和13	紙 ・ 水 彩	56.0× 38.0	講 入
5	"	甲 斐 牧 丘	昭和21	紙 ・ 水 彩	37.0× 55.5	講 入
6	"	花 菖 蒲	昭和33	紙 ・ 水 彩	55.7× 74.5	講 入
7	"	銚 子 犬 吠 埼	昭和36	紙 ・ 水 彩	37.8× 56.3	講 入
8	"	林 檜 と 柿	昭和36	紙 ・ 水 彩	37.5× 56.0	講 入
9	"	三 宝 柑	昭和36	紙 ・ 水 彩	37.5× 56.5	講 入
10	赤城 秦 舒	赤 屋 根 の 村	昭和初	紙 ・ 水 彩	33.0× 49.6	講 入
11	"	山 湖	大正 3	紙 ・ 水 彩	25.5× 35.0	講 入
12	水野 以 文	草 花	大正 3	紙 ・ 水 彩	32.5× 50.0	講 入
13	後藤 工 志	ダ リ ア	大正 2	紙 ・ 水 彩	41.4× 32.0	講 入
14	古賀 春江	風 景	不 詳	紙 ・ 水 彩	38.0× 50.5	講 入
15	富田 通雄	静 か な る 日	昭和12	紙 ・ 水 彩	37.0× 52.0	講 入
16	"	外 房 鵜 原	不 詳	紙 ・ 水 彩	37.0× 55.0	講 入
17	篠崎 輝 夫	敦 煌	昭和61	キャンバス・油 彩	182.0×227.0	講 入
18	五十嵐 光 昭	涅槃 の 前 で	昭和58	キャンバス・水 彩	162.0×130.0	講 入
19	中村 亮一郎	窠	昭和62	キャンバス・油 彩	128.8×160.4	講 入
20	羽生 智 樹	動 く 気 配 の 鳥	昭和56	キャンバス・油 彩	193.2×130.3	講 入
21	寺田 政 明	船 具	昭和45	板 ・ 油 彩	180.0×235.5	購 入
22	"	犬吠灯台の見える外川港	昭和60	板 ・ 油 彩	89.0×180.0	購 入
23	若林 鐘五郎	裸	不 詳	紙 ・ 油 彩	35.0× 50.8	寄 附
24	鷹山 宇 一	波 涛 の 歌	昭和36	キャンバス・油 彩	131.5×194.7	保 管 換

彫 刻

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高cm)	受入方法
1	安西 順 一	毘 沙 門 天 像	昭和46	ブ ロ ン ズ	81.0	購 入
2	吉野 毅	わ か 女	昭和61	ブ ロ ン ズ	130.0	購 入
3	鈴木 啓 子	FEELING-LOVE 白いボエジー	昭和48	強化プラスチック	103.0, 140.0	購 入
4	伊藤 礼太郎	夜 叉 神 解 脱	昭和57	木	160.0	購 入



浅井 忠「農家」



帖佐美行「香実と想鳥(集いの為の酒器セット)」

工 芸

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質・形 状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	津 田 信 夫	花 瓶	大正7	銅	高25.0	購 入
2	帖 佐 美 行	香実と想鳥(集いの為の酒器セット)	昭和59	彫	高35.9×径32.0	購 入
3	大須賀 喬	蝶 文 黒 銅 香 炉	昭和58	彫	高17.5×径11.5	購 入
4	"	昆 蟲 文 飾 皿	昭和61	彫	高 3.7×径49.5	購 入
5	藤 田 喬 平	飾 筥・しだれ 櫻	昭和60	ガ ラ	30.0×23.5×23.5	購 入
6	三 橋 英 作	象 嵌 花 器 (展)	昭和59	陶	高31.0×径41.0	購 入
7	横 山 光ノ介	戦 碑	昭和51	陶	68.0×52.0×20.0	購 入
8	秋 山 逸 生	蝶 貝 象 嵌 箱	昭和41	象 嵌	8.0×21.5×11.0	購 入
9	"	菱 華 文 象 嵌 長 手 箱	昭和21	象 嵌	12.7×11.2×32.4	寄 附
10	"	蕾 芝 山 象 嵌 額	昭和41	象 嵌	径33.0	寄 附
11	"	木 画 箱	昭和44	象 嵌	8.0×15.5×15.5	寄 附
12	"	カンナ芝山象嵌襟飾	昭和48	象 嵌	1.0× 4.0× 6.5	寄 附
13	"	對 縞 黒 檀 筆 筒	昭和53	象 嵌	12.6×88.2×88.2	寄 附

書

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質・形 状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	中 台 邱 園	盧 綸 詩	昭和61	紙 ・ 墨	228.5×107.5	購 入

研究資料

番号	資 料 名	受入方法
1	石井林響資料 石井林響印譜集	購 入
2	富取風堂資料 スケッチ類	寄 附



石川欽一郎「水辺」



石井林響「春秋」

施設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル—先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、珧器質タイルを型枠代にしてコンクリートと一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚味にしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2.400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2.400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施工時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、ユニット型フィルター、活性炭フィルター、キャピラリーワッシャーの4種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給

されている。

展示棟はCAV（定風量型）＋VAV（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80.000lx以上、30%の時間が50.000lx以上、50%の時間が25.000lx（平均）以上、90%の時間が5.000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50.000lx（薄晴）から5.000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60.000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル（透過率53.6%）と黒地のジョーゼット（透過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

〈設計及び工事監理者〉

大高建築設計事務所

〈施工者〉

建築：(株)竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業(株)

衛生＝第一管工事(株)

電気＝関東電気工事(株)

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブライント

〈都市計画地域指定〉

用途地域：準工業地域

〈規模・面積〉

敷地面積：33,057.87㎡

建築面積：7,641.9㎡

建ぺい率：23.11%

延床面積：8,970.85㎡

展示棟＝5,194.59㎡

管理棟＝2,274.60㎡

県民アトリエ棟＝1,501.66㎡

駐車台数：97台

《工期及び建設経費》

第1期工事（展示棟）

工期 47, 48年度

工事費 775,967千円

本 体 工 事 425,230千円

電 気 設 備 工 事 79,663千円

空 調 設 備 工 事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外 構 工 事 67,705千円

ガ ス 工 事 7,881千円

第2期工事（管理棟）

工期 49, 50年度

工事費 453,800千円

本 体 工 事 307,500千円

電 気 設 備 工 事 30,000千円

空 調 設 備 工 事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外 構 工 事 17,786千円

第3期工事（県民アトリエ）

工期 53, 54, 55年度

工事費 370,000千円

本 体 工 事 265,300千円

電 気 設 備 工 事 35,000千円

空 調 設 備 工 事 56,200千円

給排水衛生設備工事 13,500千円

外 構 工 事 8,000千円

総 工 事 費 1,607,767千円

《概 要》

建 物

【階 数】

地下1階，地上2階，塔屋1階建

【高 さ】

基礎底：G L－500m

高 さ：G L＋15.20m

【構 造】

主体構造：鉄筋コンクリート造

屋 根：鉄骨造

主 鋼 材：SS41及び高張力鋼

コンクリートの種類：

A 種・普通コンクリート（基礎・地中梁・
1階スラブ） $F_c=210\text{kg}/\text{cm}^2$

B 種・軽量コンクリート（梁・スラブ用・
地上部） $F_c=300\text{kg}/\text{cm}^2$

C 種・軽量コンクリート（地上部躯体で
A, B以外の梁・壁など） $F_c=240$
 kg/cm^2

【外部仕上げ】

外 壁：珪酸質タイル，一部コンクリート打放し

屋 根：勾配屋根＝アスファルトルーフィングシート，
天然スレート3枚葺

陸屋根＝アスファルト防水，押えコンクリ
ート，豆砂利打込み

開口部：オーダーメイド自然発色サッシュ，一部型
鋼グラファイト処理サッシュ

【内部仕上げ】

展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル

床＝自然石（北木島御影）円盤摺および本
磨（第7室）

壁＝石綿珪酸カルシウム，板下地クロス張
り，塗装仕上げ

壁＝コンクリート砕り仕上げ（第7室）

天井＝岩綿吸音板，塗装仕上げ

天井高＝3,240～13,500mm

事務室：床＝ビニールホモジニアスタイル

壁＝プラスター塗装仕上げ

天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ

天井高＝3,400mm

収蔵庫：床＝フローリングブロック

壁・天井＝米杉

天井高＝3,400mm

講 堂：床＝置敷カーペット

壁＝マコレ練付け

天井＝クロス張り

第1・第2アトリエ：

床＝ビニールアスベストタイル

壁＝コンクリート打塗装仕上げ
 天井＝軟質石綿板
 研修室：床＝ビニールアスベストタイル
 壁＝クロス張り
 天井＝岩綿吸音板
 和 室：床＝玄晶石水磨き、タタミ、檜家甲板
 壁＝京じゅらく塗
 天井＝杉柂ベニヤ目透シ、竿縁天井

設 備

【電気設備】

受電方式：交流 3相3線式 6,000V 50Hz
 契約容量：560Kw
 電話交換方式：
 40回線クロスバー完全共通制御分散中継
 方式

【空調設備】

展示棟＝CAV(定風量型)＋VAV(可変風量型)方式
 管理棟＝VAV方式
 保管庫＝露点再熱制御方式

県民アトリエ棟＝各室ハンドリング方式
 熱源：空気熱源スクルー熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水：ポンプ庄送方式，引込み管径75mm
 排水：汚水・雑排水合流方式系統（管径300），雨水
 系統（管径300）別，公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式：自然排煙，機械排煙（第1,2,7 展示室）
 消火方式：屋外・屋内消火栓，不燃性ガス消火設備
 （ハロゲン1301）
 自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機，定格出力100KVA
 火災報知設備：

P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備：ITVカメラ設備，防犯警報装置
 昇降機設備：荷物用エレベーター
 規模：容量 3,000kg，カゴ内法＝3,000mm×
 3,000mm×3,000mm，速度＝30m/min

展 示 棟

玄関ホール	102.40 m ²	厨 房	36.00 m ²	工 作 室	31.00 m ²
ク ロ ー ク	91.80 m ²	従業員控室等	17.28 m ²	発 電 機 室	25.00 m ²
倉 庫 A	2.70 m ²	食堂ホール	61.20 m ²	電 気 室	123.20 m ²
〃 B	2.70 m ²	ロ ビ ー	335.52 m ²	ポ ン プ 室	76.80 m ²
第一展示室	437.76 m ²	第一休憩室	23.04 m ²	機 械 室	305.20 m ²
〃 二 〃	400.32 m ²	〃 二 〃	23.04 m ²	高架水槽室	11.46 m ²
〃 三 〃	469.08 m ²	〃 三 〃	23.04 m ²	E. V機械室	27.28 m ²
〃 四 〃	403.20 m ²	便 所 A	30.24 m ²	E. V廻 り	54.56 m ²
〃 五 〃	824.19 m ²	〃 B	23.76 m ²	ダクトスペース	35.68 m ²
〃 六 〃	330.58 m ²	身障者用便所	7.92 m ²	廊 下 等	123.48 m ²
〃 七 〃	566.56 m ²	コントロール室	20.16 m ²		
食 堂	119.52 m ²	フィルター室	28.92 m ²	合 計 ①	5,194.59 m ²

管 理 棟

(1階)

第2会議室	22.62	m ²
更衣室	14.83	m ²
医務室	21.18	m ²
文書庫	22.02	m ²
警備員室	43.59	m ²
第一会議室	20.15	m ²
倉庫	7.19	m ²
湯沸室	5.19	m ²
便所	24.54	m ²
宿直室	34.20	m ²
物置	9.92	m ²
用務員室	31.83	m ²
審査室・資料準備室・荷解室	520.68	m ²
消毒室	31.79	m ²
資料倉庫	124.25	m ²
荷解梱包保管室	52.67	m ²
荷扱人控室	21.94	m ²
機械室	51.74	m ²
廊下等	123.52	m ²
小計	1,183.85	m ²

(2階)

館長室	33.27	m ²
副館長室	23.42	m ²
第一応接室	14.67	m ²
第二応接室	14.55	m ²
庶務課室	112.34	m ²
会議室	43.84	m ²
学芸課室	195.32	m ²
学芸相談室	23.91	m ²
研究工作室	216.49	m ²
写真スタジオ	54.30	m ²
器材室	6.74	m ²
暗室	12.19	m ²
第一収蔵庫	184.40	m ²
〃 二 〃	42.81	m ²
E・V前室	16.39	m ²
便所	21.50	m ²
湯沸室A	3.24	m ²
〃 B	6.87	m ²
廊下等	60.94	m ²
ダクトスペース	3.56	m ²
その他	3.56	m ²
小計	1,090.75	m ²
合計②	2,274.60	m ²

県民アトリエ棟

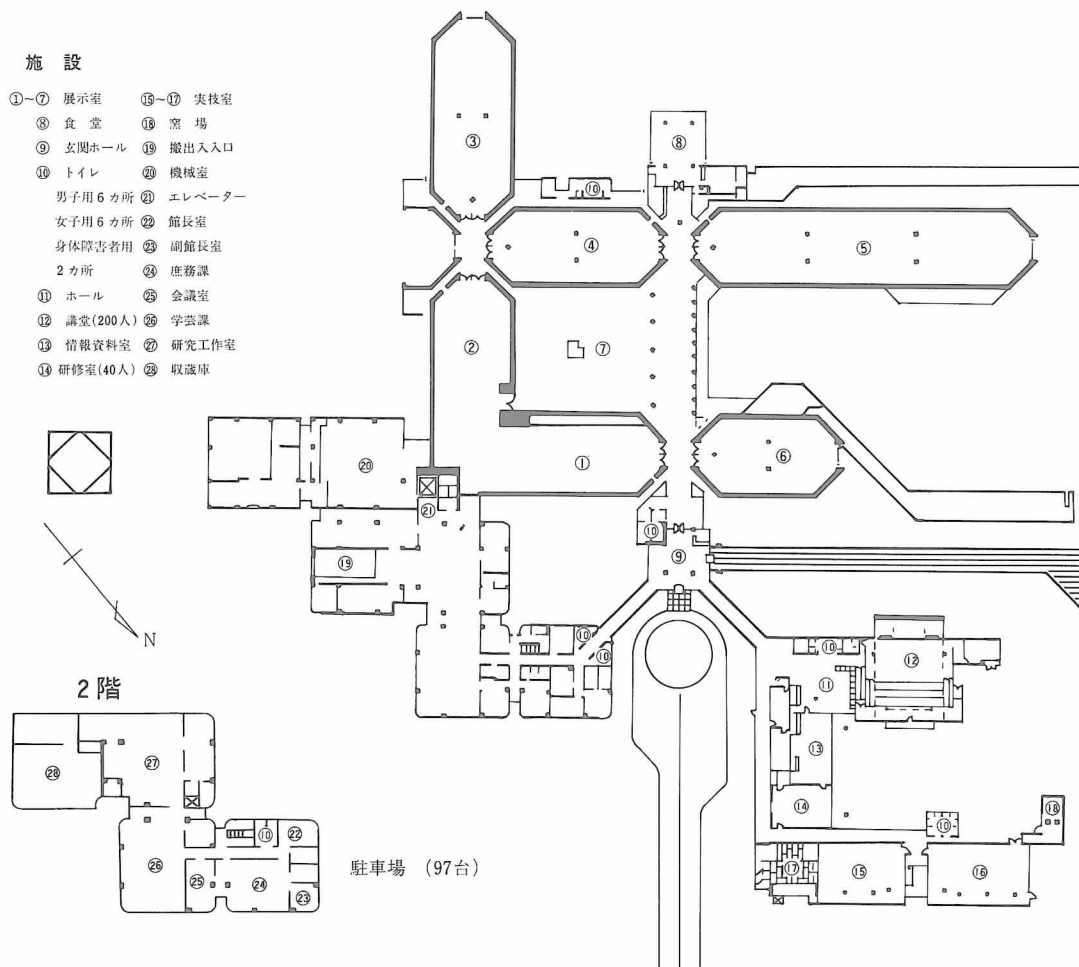
1F機械室	25.92	m ²
講堂倉庫	8.64	m ²
講堂	259.24	m ²
コントロール室	30.33	m ²
ホール側便所	29.97	m ²
情報資料室	172.77	m ²
同上倉庫	4.70	m ²
事務室	22.76	m ²
研修室	74.70	m ²
同上倉庫	4.23	m ²
第1アトリエ	155.70	m ²
第2アトリエ	184.31	m ²
第3アトリエ	95.47	m ²
アトリエ側便所	20.77	m ²
荷解室	25.65	m ²
窯場	27.17	m ²
同上倉庫	6.66	m ²
ホールその他	352.67	m ²

合計③ 1,501.66 m²

総合計 8,970.85 m²
(①+②+③)

施 設

- ①～⑦ 展示室
- ⑧ 食堂
- ⑨ 玄関ホール
- ⑩ トイレ
- 男子用6カ所
- 女子用6カ所
- 身体障害者用
- 2カ所
- ⑪ ホール
- ⑫ 講堂(200人)
- ⑬ 情報資料室
- ⑭ 研修室(40人)
- ⑮～⑰ 実技室
- ⑱ 窯場
- ⑲ 搬出入入口
- ⑳ 機械室
- ㉑ エレベーター
- ㉒ 館長室
- ㉓ 副館長室
- ㉔ 庶務課
- ㉕ 会議室
- ㉖ 学芸課
- ㉗ 研究工作室
- ㉘ 収蔵庫



事業

1 “みる”事業

常設収蔵作品を年3期に分けて開催し、特に浅井忠の作品・資料は常陳した。

特別展としては、「ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち」と「浜口陽三展」を開催した。

企画展としては、「房総の美術家シリーズ16—富取風堂展」を開催したほか、「千葉県移動美術館」を、丸山町と浦安市において開催した。

2 “かたる”事業

「美術講演会」を2回、「美術を語る会」を5回開催したほか、「美術における東と西」をテーマとして「美術館夏季大学」を2日間開催した。

3 “つくる”事業

初心者を対象とした入門講座9種11講座、延日数47日（うち、友の会1種3講座、延日数18日）、経験者を対象とした研修講座5種8講座、延32日開催した。

常 設 展

常設 収蔵作品展（第Ⅰ期）

今年度収蔵作品展第Ⅰ期は、3部に分けて構成した。第1部では、収蔵作品の中から、日本画、工芸、書の分野を重点的に、明治期から現在活躍する作家までを取り上げた。第2部では、浅井忠のコーナーを設け、油彩、水彩、素描のほか、日本画、彫刻、工芸の分野の作品及びスケッチブック、図案画稿、教科書類等の資料類まで一堂に展覧し、多方面から浅井忠の業績を紹介した。松岡寿、石井柏亭、梅原龍三郎等、周辺の作家の作品も併せて紹介した。第3部では、昨年度に引き続き、新進気鋭の作家から現代彫刻界を代表する作家まで、新収蔵作品を中心に彫刻作品を一堂に展覧した。

会 期 昭和61年4月1日(火)～6月8日(日) 60日間
 展示点数 129点
 入場者数 29,245人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
第 1 部			
《日本画》			
石 井 林 響	梅 花 書 屋	香 取 正 彦	臘 銀 玉 錯 花 瓶
〃	唐 美 人	会 田 富 康	蓋 の ある 青 銅 壺
〃	夜 道 を 駆 け る 人	信 田 洋	黄 銅 花 い ら ず
〃	高 士 観 瀑	津 田 永 寿	幾 星 霜
〃	雨 後 浮 船	宮之原 謙	象 嵌 磁 鉢
〃	秋 景 山 水	山 本 正 年	瑞 光 体
〃	木 華 開 耶 姫	土 肥 満	向 い あ う 単
〃	羅 浮 仙 女 禽	藤 田 喬 平	飾 宮 朱 雀
〃	梅 花 小 所 見	《書》	
古 城 江 観	バ リ ー 島 所 見	高 宮 金 陵	山 部 赤 人 歌
〃	ヴ ェ ニ ス 所 見	浅 見 喜 舟	ト 居
富 取 風 堂	群 茂 ・ 残 雪	〃	心 田 灑 掃 淨 無 塵
鈴 木 月 潭	石 夕 粧 趣	大 石 隆 子	待 天
横 尾 芳 月	秋 狗 深	小 暮 青 風	桃 李 争 妍
〃	三 篤 刈 る 信 濃 の 女	高 沢 南 総	
島 多 訥 郎	海 漁 花 村	第2部 浅井忠作品コーナー	
立 石 春 美	夜 明 け 迦 翳	浅 井 忠	藁 屋 根
東 山 魁 夷	風 の 中 の 釈 還 機	〃	フオンテンプローの夕景
若 木 山	燈 空 往 還 機	〃	母 の 肖 像
〃	殺 滝 野 達	〃	溪 流
杉 原 元 人	メ ス テ ィ ー ソ の 女	〃	平 壤 大 同 江 煉 光 亭
小 野 具 定 学	笑 獅 子 香 炉	〃	魏 子 窩 第 二 軍 司 令 部
〃	閑 鱗 上 下	〃	金 州 城 南 門 外
岩 崎 巴 人		〃	金 州 城 壁 上
大 森 運 夫		〃	フオンテンプローの森
〃		〃	男 性 裸 像
加 倉 井 和 夫		〃	洋 上 の 夕 陽
関 主 税		〃	京 都 高 等 工 芸 学 校 の 庭
松 尾 敏 男		〃	中 沢 岩 太 像
高 畑 郁 子		〃	田 植 之 図
《工 芸》		〃	松 梅
香 取 秀 真		〃	狂 古 参 種 ま き の 図
津 田 信 夫		〃	

作家名	作品名	作家名	作品名
浅井 忠	当世風俗五十番歌合(2番)	研究資料	浅井忠使用印
"	当世風俗五十番歌合(7番)	浅井忠周辺作家の作品コーナー	
"	当世風俗五十番歌合(15番)	フォンタネージ	神女之図
"	当世風俗五十番歌合(28番)	松岡 寿	森と小川
"	籠を背負う女	都鳥英喜	村の道
"	印旛沼	石井柏亭	聖フランチェスコ寺院
"	鍛冶橋	"	信州風景
"	風景(1)	霜鳥之彦	緑のスウェーター
"	風景(2)	問部時雄	田園風景
"	曳船通り	黒田重太郎	浴後
"	平城大仏鐘楼	安井曾太郎	熱海附近
"	房州波太村	梅原龍三郎	竹窓読書図居
"	房州白浜	"	皇
"	房州白浜	第3部現代彫刻の世界	
"	房州白浜村	北村西望	二人の天女
"	房州乙浜村	佐藤忠良	ラッブ帽
"	磐梯山の図	舟越保武	婦人像
"	白浜風景	大川丈夫	ヨガム
"	西洋婦人	堀川恭	丸いフォルム
"	女の顔(模写)	山崎 猛	木馬の詩
"	図案画稿(溪流)	原 武典	水の中の太陽('81)
"	図案画稿(花瓶図)	久保田 俣通	若き悩み
"	図案画稿(戸棚図)	六崎 敏光	香風
"	図案画稿(花瓶2種)	島田勝吾	人間家族・妻の肖像
"	農婦像	山本正道	ヴァージニア
"	ライオンの像	梅原正夫	なかよし
"	農家風俗画手塩皿	三木俊治	行列
研究資料	スケッチブック	金田雄作	"Bed Room" N氏邸見取図より
"	教科書類	青木三四郎	憩い
"	当世風俗五十番歌合(上・下)	酒井 良	時を刻む
"	A Pictorial Museum of Japanese Manners and Customs	松本雄治	大母神, 天を翔ける
"	水彩スケッチ	高田 大	リラックス

常設 収蔵作品展 (第II期)

今年度収蔵作品展第II期は、4部に分けて構成した。第1部では「水のある風景」をテーマとした日本画・洋画・水彩画を展覧した。第2部では、新収蔵作品のコーナーとして、わが国を代表する工芸・洋画・日本画の作家の作品を紹介した。第3部では今年度収蔵作品展第I期に続き、浅井忠のコーナーを設け、作品及び関係資料を紹介した。日本画・洋画・水彩・工芸・彫刻の作品及び教科書の挿絵の下書きとなった素描や槐庭と号した少年時代の習作類、滞欧時代の資料類も併せて展覧した。第4部では「素材と表現」をテーマとした彫刻を展覧した。

会 期 昭和61年7月25日(金)～10月19日(日) 75日間 (3室は9月7日(日)まで)

展示点数 112点

入場者数 53,916人

出品目録

作家名	作品名	作家名	作品名
第1部 水のある風景			
《日本画》		吉岡 堅二	濤
田岡 春 径	幽	時田 直 善	魚
横尾 芳 月	智 積 院 の 庭	若木 山	波 上 海 女 図
		"	池 の 春

作家名	作品名
杉原元人	海花
岩崎巴人	波濤岩礁図
関主税	潤声
《洋画》	
石井柏亭	安倍川
小川千襲	港
澤部清五郎	ハドソン河の朝霧
石橋武治	筑波遠望
鳩川誠一	ヴェニス風景
浅井真	四月の海
中西利雄	トリエール・シュール・セヌ
〃	外房風景
氏家次郎	海辺
小堀進	レマン湖畔
〃	セーヌ川
笹岡了一	秋麗芦の湖
高橋規矩治郎	漁船
齊藤捷夫	海辺の光景

第2部 新収蔵作品コーナー

《工芸》	
秋山逸生	菱華文象嵌長手箱
〃	蓄芝山象嵌額
〃	蝶貝象嵌箱
〃	木画箱
〃	カンナ芝山象嵌襟飾
〃	對縞黒檀筆筒
帖佐美行	香実と想鳥(鯉のゐの酒器セット)
藤田喬平	飾篭・しだれ櫻

《日本画》

石井林響	松に鴉
〃	弁財天
〃	葦に鳥
〃	蘇武
〃	山水
〃	春秋

《洋画》

浅井忠	農家
第3部 浅井忠コーナー	
浅井忠	農婦
〃	婦人
〃	沢入駅
〃	貔子窩第二軍司令部
〃	兵士
〃	金州城壁上
〃	平壤大同江煉光亭
〃	フォンテンブローの森
〃	男性裸像
〃	洋上の夕陽
〃	奈良良郊外
〃	京都高等工芸学校の庭
〃	欧州市場風俗
〃	亀の図

作家名	作品名
浅井忠	カルタとりの女児
〃	草を摘む女たち
〃	騎馬武者群像
〃	韓信の図
〃	猿の図
〃	琵琶法之師
〃	田植之図
〃	ほしかき
〃	餓鬼図
〃	鍾馗図
〃	鳥籠を持つ女
〃	パリの公園
〃	多奈摩良

〃	舟
〃	皇太子馬上図
〃	船
〃	はたらく婦人
〃	樹
〃	樹
〃	野
〃	馬
〃	二
〃	犬と人
〃	あひる
〃	曳船通
〃	曳庭時代画帳
〃	曳庭時代綴
〃	絵手本
〃	滞欧時代使用手帳
〃	滞欧時代スクラップ帳
〃	滞欧日記附巴里日記
〃	〃 (別冊)
〃	ヨーロッパ画模写
〃	浅井忠宛絵葉書
〃	〃
〃	菓蟹合戦図
〃	舞楽
〃	お福の像
〃	百鬼夜行

第4部 素材と表現

《彫刻》	
安西順一	秋晴
長谷川昂	安息
大國丈夫	ヨガム
堀川恭	丸いフォルム
鈴木実	存在する私
堀之典	姉妹
原武典	水の中の太陽 ('81)
鈴木啓子	Feeling - 69
島田勝吾	少女と鳥
梅原正夫	なかよし

作家名	作品名
米林雄一	Circle and triangle
山本正道	エトルリアの壺
三木俊治	北国からの男
"	行列
金田雄作	"Bed room" N氏邸見取図より

作家名	作品名
山崎英五	地を這うものども VIII
"	" XIII
青木三四郎	憩 い
松本雄治	大母神, 天を翔ける
高田大	リラックサス

常設 収蔵作品展（第Ⅲ期）

今年度収蔵作品展第Ⅲ期は3部に分けて構成した。第1部では、第Ⅰ期、第Ⅱ期に引き続き、浅井忠のコーナーを設けた。今回は、油彩、水彩、素描を始め、スケッチブック、日記類などの背景資料を浅井の生涯にわたって紹介した。併せて周辺作家及び現代作家のリアリズムの追求を主題とした作品(浅井忠記念賞展受賞作品)を展覧した。第2部では、日本の近代美術史上に大きな役割を果たした作家の作品を中心に、水彩画、金工、銅版画の世界をそれぞれ展覧した。第3部では、今年度新たに収蔵した作品を紹介した。

会 期	昭和61年12月5日(金)～昭和62年3月31日(火)	91日間
展示点数	142点	
入場者数	52,197人	

出 品 目 録

作家名	作品名	作家名	作品名
第1部 浅井忠コーナー			
浅井 忠	薬 屋 根	研 究 資 料	新 按 小 学 画 手 本
"	フォンテンブローの夕景	"	欧州日記附巴里日記
"	農 婦	"	" (別冊)
"	老 母 像	"	滞欧時代使用手帖
"	沢 入 駅	"	寒 月・水 仙 (句集)
"	溪 流	"	ス ケ ッ チ ブ ッ ク
"	金 州 城 南 門 外	"	中 等 鉛 筆 画 手 本
"	魏子窩第二軍司令部	"	東宮御所壁飾「武士の山狩」草稿墨線画
"	パ リ 公 園	"	水 彩 ス ケ ッ チ
"	洋 上 の 夕 陽	"	当世風俗五十番歌合(上下)
"	花	"	新 編 自 在 画 臨 本
"	中 沢 岩 太 像	"	二 十 日 会 記 事
"	東宮御所壁飾草稿(1)	"	十 六 日 会 誌
"	東宮御所壁飾草稿(2)	"	黙 語 会 誌
"	松	"	黙 語 日 本 画 集
"	梅	"	黙 語 図 案 集
"	狂 女	"	黙 語 西 洋 画 集
"	古 城	"	書 簡 類
"	子規居士弄丹青図	"	写 真
"	風俗図(人足図)	フォンタネージ	神 女 之 図
"	風俗図(参詣)	都 鳥 英 喜	洛 北 の 早 春
"	農 婦 像	石 井 柏 亭	聖フランチェスコ寺院
"	羅 漢 像	黒 田 重太郎	浴 後
"	菓 子 器	安 井 曾太郎	熱 海 附 近
"	花 瓶	梅 原 龍三郎	皇 居
研 究 資 料	槐庭時代手習	松 本 秋 美	a s p e t t a r e
"	槐庭時代画帳	斉 藤 捷 夫	海 辺 の 光 景
"	筑 波 日 記	高 森 登志夫	絵 画
"	A Pictorial Museum of Japanese Manners and Customs	斉 藤 寅 彦	時 の 跡
"	スケッチブック7,8(従征画稿)	第2部 水彩画の世界	
"	従 征 画 稿	浅 井 忠	京 都 高 等 工 芸 学 校 の 庭
"	彩 画 初 歩	"	奈 良 郊 外
		大 下 藤次郎	紫 陽 花

作家名	作品名
大下 藤次郎	青 梅
白 滝 幾之助	伊 国 ア シ
"	伊 国 ナ ポ
三宅 克己	小 諸 城
石井 柏亭	病 児
"	晩 春 行 楽
赤城 泰舒	風 景
中西 利雄	南 仏 風 景
"	曇 り 日 の 離 宮 と 駅
小堀 進	南 欧 の 丘
"	ロ ン ド ン の 朝

金工の世界

香取 秀真	霊 獣 文 大 花 瓶
"	鳳 凰 文 様 花 瓶
"	笑 獅 子 香 炉
"	筋 入 花 瓶
"	鳩 香 炉
津田 信夫	荒 獅 子 置 物
"	唐 獅 子 置 物
"	水 犬 子
"	老 兎 子
"	兎 子

香取 正彦	臍 銀 玉 錯 花 瓶
会田 富康	蓋 の ある 青 銅 壺
信田 洋	黄 銅 花 い ら ず
津田 永寿	鳥 の 花 器
鈴木 治平	湿 原 の 詩

銅版画の世界

浜口 陽三	顔
"	う さ ぎ
"	西 瓜
"	パ リ の 屋 根
"	ピーマン の ある 静 物
"	ポ プ ラ
"	190 と 1 匹
"	1/4 の レ モ ン
"	毛 糸
"	く る み
瑛 九	散 歩 A
"	オ ペ ラ グ ラ ス
"	あ こ が れ

作家名	作品名
瑛 九	ひ ま わ り
"	愛 す る 二 人
"	か べ
牛 玖 健 治	2 人
"	作 品 発 芽
"	作 品 鏡
"	作 品 発 祥
深 沢 幸 雄	神 話
"	虚 空 に 乱 れ る
"	神 威 A
"	凝 視
"	青 い 裸 像
"	掌 の 中 の 影
池 田 満寿夫	飾 り 窓 の 中
"	S o m e t h i n g 1
"	シ ン デ レ ラ の 広 告
"	午 後
"	夜 の 旅
"	白 い 誘 惑
池 田 良 二	M a r t i n
"	S c a t t e r e d S e e d s
"	T r i s t e z a
"	N o b o d y k n o w s m y m i n d

第3部 新収蔵作品コーナー

《工芸》

秋山 逸生	菱 華 文 象 嵌 長 手 箱
"	蕾 芝 山 象 嵌 額 箱
"	蝶 貝 象 嵌 箱
"	木 画 箱
"	カンナ 芝 山 象 嵌 襟 飾
"	對 縞 黒 檀 筆 筒
帖 佐 美 行	香 実 と 想 鳥 (集 い の 為 の 酒 器 セ ッ ト)
藤 田 喬 平	飾 宮 ・ し だ れ 櫻
石 井 林 響	松 に 鴉
"	弁 財 天
"	葦 に 鳥
"	蘇 武
"	山 水
"	春 秋

《洋画》

浅井 忠	農 家
------	-----

通年常設展示

作家名	作品名
《彫刻》	
鈴木 章	七 面 鳥
藤野 天光	銃 後 工 場 の 護 り
"	あ あ 青 春
木村 賢太郎	立 像
"	う ご め く ト ル ソ ー II
"	う ご め く ト ル ソ ー VI

作家名	作品名
木村 賢太郎	海
大須賀 力	椅 子 の 女 像
中島 幹夫	風 の 肖 像
郡司 和男	詩 人 の 肖 像
鈴木 徹	帰 雲 ・ 春
山崎 英五	地 を 這 う も の ど も XIV

特 別 展

ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち

会 期 昭和61年 6 月13日(金)～ 7 月18日(金) (31日間)

展示点数 70点

入場者数 18,855人

19世紀から20世紀前半にかけて、フランスを中心にヨーロッパの近代絵画は絢爛として咲き誇った。特に19世紀後半に隆盛した印象派絵画以後、後期印象派、象徴派等、近代思考に富んだ絵画が次々と形成され、これらの潮流は、20世紀に至り、フォーヴィスム、キュビスム、エコール・ド・パリ等へと連なり、今日の絵画に大きな影響を与えた。

本展覧会では、印象派からエコール・ド・パリまでの主要な作家の作品に焦点を当て、各作家の特質並びに近代絵画史上における功績について理解を深めるとともに、優れた美術作品を鑑賞する機会とした。

なお、本展覧会は、「国際化」をメインテーマとして実施される昭和61年度「県民の日」行事の関連行事として開催した。



特別展
ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち

1986年6月13日(金) - 7月18日(金)

■開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
■休館日 6月14日(土)、15日(日)、7月19日(土)、20日(日)
■観覧料 一般 100円(小学生以下 50円) 団体 80円(小学生以下 40円) 障がい者 50円(小学生以下 20円)

千葉県立美術館

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
モネ	ヴェトウイユの草原	ボナール	室内の裸婦
〃	テムズ河の橋	ヴューヤール	アトリエの裸婦
〃	ロンドンの国会議事堂、ばら色のシンフォニー	〃	静物
ピサロ	エヌリーの道 眺望	マティス	トルコの肘掛椅子の人物
〃	エラニーの花咲くリンゴの木	〃	母子
シスレー	朝のロワン河畔	〃	横たわる裸婦
〃	春の陽光	ルオー	秋(ナザレ)
シニャック	港湾風景	〃	裸婦
〃	モン＝サン＝ミッシェルの眺め	〃	辱かしめを受けるキリスト
ドガ	踊り子	〃	道化師
〃	身仕度をする女	マルケ	風景
ルノール	ばら色と青	ヴラマンク	雪の道
〃	鞭をもつ子供	〃	風景
〃	フランソワーズ嬢	〃	花
〃	麦わら帽子と裸婦	ドラン	裸婦
セザンヌ	四人の浴女	デュフィ	海
ゴーギャン	水飼いの場	〃	ノルマンディの麦畑
ゴッホ	アルルのグレース橋	ドンゲン	ドーヴィルのポロ競技
ロートレック	橇をひく馬	〃	首飾りの女
〃	ラ・グリュ、*ムーラン・ルージュのポスター	ピカソ	シュザンヌ・ブロックの肖像
〃	エグランティーヌ嬢一座	〃	頭部
ルドン	帆船(寓意的風景)	〃	坐る女
〃	白いペガサス	レジェ	手のある静物
〃	花	ユトリロ	用水場
〃	〃	〃	サンノワの風車
ボナール	トランプ占いをする女	〃	サクレ＝クール教会とノルヴァン通り
〃	ばらをもつ女	〃	ムーラン・ド・ラ・ギャレット
〃	手紙を書く女	モディリアーニ	ルニア・チェホフスカの肖像

作家名	作品名
モディリアーニ	巻毛髪の少女
スーチン	路上の子供
キスリング	緑のカーテンと裸婦
"	両手を背中にまわす裸婦
"	花
パスキン	肖像
"	三人の女
ローランサン	二人の女

作家名	作品名
ローランサン	ヴァランティーヌ・テシエの肖像
"	サン・ルイ島
シャガール	ヴィテブスクの冬の夜
"	マーガレットと恋人達
レオナール・フジタ	朝食
"	体操する子供達
"	誕生日



第 1 室



第 3 室

昭和61年度国立美術館所蔵美術名品展

浜口陽三展

—静寂の詩・メゾチントの巨匠—

会 期 昭和61年 8月16日(土)～9月15日(月) (27日間)
 展示点数 163点
 入場者数 6,070人

卓抜した銅版画、とりわけメゾチントの技法で、世界各地で開催される国際版画コンクールにおいて受賞を重ね、いまや世界的なメゾチントの巨匠である浜口陽三は、柔らかな黒を背景に日常身邊のごくありふれたものたち——さくらんぼ、ぶどう、レモン、てんとう虫、蝶、巻貝などを注意深く画面に配置する。これらの小静物はきわめて緻密で繊細な感覚による無駄を排した簡素化によって静謐な小宇宙となり現われる。清潔で芳醇な浜口の作品は見るものの眼と精神を引きつけ、深い慰めと感動を与えてくれる。

本展覧会は、第1部として国立国際美術館の所蔵作品の中から126点を選び、浜口陽三の銅版画の世界の全貌を展示し優れた版画を鑑賞する機会とした。

併せて、第2部として浜口陽三ゆかりの和歌山県及び本県的美術館等関係機関の協力を得て、初期の作品を中心に浜口陽三関係資料を展覧した。

出 品 目 録

作 品 名	制作年	版 式	作 品 名	制作年	版 式
《第1部》			あ ぎ み	1957	メゾチント
猫	ca. 1950	ドライポイント	ぶ ど う の 房	1957	メゾチント
隅田川(大川中洲附近)	ca. 1951	メゾチント	ク ロ ー バ ー の 実	1957	メゾチント
月 島	1951	メゾチント	ア ス バ ラ ガ ス	1957	メゾチント
洋 梨 と ぶ ど う	1951	ドライポイント	ぎ く ろ と ぶ ど う	1957	メゾチント
裸 婦	1951	アクワチント	ぎ く ろ	1957	メゾチント
裸 婦	1951	ドライポイント	緑 の ぶ ど う	1958	メゾチント
少 女	1951	ドライポイント	1 つ の さ く ら ん ぼ	1958	メゾチント
顔	1952	メゾチント	う い き よ う	1958	メゾチント
顔	1954	ドライポイント	レ モ ン と 魚	1958	メゾチント
ジ ブ シ 一	1954	アクワチント	雲	1958	メゾチント
西 瓜 二 切	1954	メゾチント	ぎ く ろ	1958	メゾチント
魚 と 果 物	1954	メゾチント	レモンとさくらんぼ	1959	メゾチント
う さ ぎ	1955	メゾチント	ぎ く ろ と ナ イ フ	1959	メゾチント
ピーマンのある静物	1955	メゾチント	と う も ろ こ し	1959	メゾチント
ぶ ど う	1955	メゾチント	く る み	1959	メゾチント
筆 と メ ロ ン	1955	メゾチント	く る み	No.43のメゾチント のテスト刷り	
パ リ の 屋 根	1956	メゾチント	た に し	1960	メゾチント
パ リ の 屋 根	1956	メゾチント	さ か な	1960	メゾチント
び ん と レ モ ン	1956	メゾチント	か に	1960	メゾチント
青 い ぶ ど う	1956	メゾチント	黒 い さ く ら ん ぼ	1960	メゾチント
魚 と さ く ら ん ぼ	1956	メゾチント	貝	1960	メゾチント
ぶ ど う と ナ イ フ	1956	メゾチント	白 菜	1960	メゾチント
し た び ら め	1956	メゾチント	朝 食	1960	メゾチント
洋 梨 と ぶ ど う	1956	メゾチント	ア マ ン ド	1960	メゾチント
2 つ の さ く ら ん ぼ	1957	メゾチント	暗い背景のぶどう	1961	メゾチント
黒 い さ く ら ん ぼ	1957	メゾチント	や ど か り	1961	メゾチント
水差しとぶどうとレモン	1957	メゾチント	か わ ら な で し こ	1961	メゾチント



作 品 名	制作年	版 式
く る み	1961	メゾチント
巻 貝	1961	メゾチント
ひ と で	1962	メゾチント
ポ ブ ラ	1962	メゾチント
ぶ どう と レ モ ン	1962	メゾチント
黒 い さ く ら ん ぼ	1963	メゾチント
て ん と う 虫	1963	メゾチント
4 つ の さ く ら ん ぼ	1964	メゾチント
黒 い さ く ら ん ぼ	1964	メゾチント
2 つ の さ く ら ん ぼ	1964	メゾチント
ア ス バ ラ ガ ス	1964	メゾチント
19 と 1 つ の さ く ら ん ぼ	1965	メゾチント
突 堤	1965	メゾチント
て ん と う 虫	1965	メゾチント
ト リ コ ッ ト	1965	メゾチント
毛 糸 と 編 み 棒	1965	メゾチント
赤 い 鉢 と 黒 い さ く ら ん ぼ	1966	メゾチント
14 の さ く ら ん ぼ	1966	メゾチント
緑 と 紫 の ぶ どう	1967	メゾチント
蝶	1968	メゾチント
17 の さ く ら ん ぼ	1968	メゾチント
赤 い 皿	1968	メゾチント
蝶 と 太 陽	1969	メゾチント
ぶ どう の 房	1969	メゾチント
て ん と う 虫	1971	リトグラフ
テーブル掛けとさくらんぼ	1971	リトグラフ
び ん と さ く ら ん ぼ	1971	リトグラフ
く る み	1971	リトグラフ
赤 い 鉢	1971	リトグラフ
26 の さ く ら ん ぼ	1971	リトグラフ
赤 い パ イ プ	1971	リトグラフ
蝶 と 葉	1972	メゾチント
さくらんぼとアスパラガス	1973	メゾチント
て ん と う 虫	1974	メゾチント
蝶	1974	メゾチント
あ じ さ い	1974	メゾチント
さ く ら ん ぼ	1974	メゾチント
貝	1974	メゾチント
ぶ ど う	1974	メゾチント
2 匹 の て ん と う 虫	1975	メゾチント
190 と 1 つ	1975	メゾチント
ツ ー ペ ア ー ズ	1976	メゾチント
4 の レ モ ン	1976	メゾチント
さくらんぼと青い鉢	1976	メゾチント
貝	1976	メゾチント
2 匹 の 蝶	1977	メゾチント
8 つ の く る み	1977	リトグラフ
く る み	1978	メゾチント
毛 糸	1978	メゾチント
ぎ く ろ	1978	メゾチント
ア ス バ ラ ガ ス	1978	メゾチント
さ く ら ん ぼ	1978	メゾチント
て ん と う 虫	1978	メゾチント

作 品 名	制作年	版 式
毛 糸	1978	メゾチント
ぶ ど う	1978	メゾチント
2 匹 の て ん と う 虫	1979	メゾチント
二 色 の ぶ ど う	1979	メゾチント
朱 色 の 蝶	1979	メゾチント
赤 い 毛 糸	1979	メゾチント
32 の さ く ら ん ぼ	1979	メゾチント
巻 貝	1979	メゾチント
バトリックのさくらんぼ	1980	メゾチント
9 つ の 貝 殻	1980	メゾチント
3 つ の ポ ブ ラ	1980	メゾチント
緑 の 毛 糸	1981	メゾチント
西 瓜	1981	メゾチント
赤 い 蝶	1981	メゾチント
ロビーナのさくらんぼ	1981	メゾチント
く る み	1982	メゾチント
青 い 蝶	1982	メゾチント
び ん と レ モ ン	1983	メゾチント

<第2部>

堀	割	ca. 1948	メゾチント
	猫	ca. 1950	ドライポイント
	猫	ca. 1950	ルーレット
う さ ぎ		1951	メゾチント
	港	ca. 1951	メゾチント
魚 河 岸 の 汽 車		1951	メゾチント
隅 田 川		1951	メゾチント
隅 田 川		1951	メゾチント
隅 田 川		1951	メゾチント
	女	1951	ドライポイント
臥 婦		1951	ドライポイント
レ グ		1951	アクアチント
二 つ の 顔		1951	ドライポイント
		1953	メゾチント
ジ ブ シ ー		1954	アクアチント
スペイン風油入れ		1954	メゾチント
	雲	1958	メゾチント
び ん と く る み		1959	メゾチント
西 瓜		1955	メゾチント
青 い ガ ラ ス		1957	メゾチント
1 つ の さ く ら ん ぼ	ca. 1960	メゾチント	
て ん と う 虫		1960	メゾチント
	貝	1960	メゾチント
1 つ の さ く ら ん ぼ		1962	メゾチント
毛 糸		1964	メゾチント
あ じ さ い		1964	メゾチント
	蝶	1968	メゾチント
赤 い 皿		1968	メゾチント
ブラジルの太陽		1971	リトグラフ
二 名 の ぶ ど う		1979	メゾチント
32 の さ く ら ん ぼ		1979	メゾチント
3 つ の ポ ブ ラ		1980	メゾチント
西 瓜		1981	メゾチント

企 画 展

房総の美術家シリーズ16—

富 取 風 堂 展

会 期 昭和61年 9 月13日(土)～10月12日(日) (26日間)

展示点数 66点

入場者数 25,919人

日本画家の富取風堂(明治25～昭和58)は、東京日本橋に生まれ、はじめ松本楓湖の画塾で学び、のち同門の今村紫紅や速水御舟らと共に赤曜会を結成し、日本画の研究と開拓に力を注いだ。更に大正4年日本美術院展(院展)に初入選し、以後院展を中心に活躍した。日本美術院においては同人として評議員や監事等の要職をつとめ、日本画の発展に大きく貢献した。本県においては、永く市川市に在住し、県美術会の常任理事、顧問等を歴任するなど、本県の美術の振興に尽力し、県文化功労者として表彰された。

本展覧会では、日本画界の重鎮であった富取風堂の遺作を一堂に展観することにより、その画業を回顧し、顕彰した。



出 品 目 録

作 品 名	制 作 年	作 品 名	制 作 年
漁 家 春 光	1926 (大15)	蟹 夕	1958 (昭33)
游 鯉 (其一)	1928 (昭3)		1960 (" 35)
游 鯉 (其二)	" (")	駅 路	1961 (" 36)
芍 薬	1930 (" 5)	暮 色	1962 (" 37)
朝 光	1931 (" 6)	雨 の 花	1963 (" 38)
薄 暮	" (")	親 子	1964 (" 39)
雪 後 争 鳥	1933 (" 8)	河 畔	1965 (" 40)
斜 陽 (夏すがた其一)	1936 (" 11)	母 子 の 馬	1966 (" 41)
夜 (夏すがた其二)	" (")	群 魚	1967 (" 42)
葛 西 風 景	1937 (" 12)	ば ら 園	1968 (" 43)
厩 舎	1938 (" 13)	朝	1969 (" 44)
漁 村 の 初 夏	1942 (" 17)	麦 初 秋	1971 (" 46)
秋 の 草	1943 (" 18)	う す れ 夏	1972 (" 47)
沼 畔 残 照	1948 (" 23)	き び と 茄 子	1975 (" 50)
仔 馬	1949 (" 24)	山 桜 と 民 家	
漁 港 の 朝	1950 (" 25)	桃 に 鳥	(大 正 期)
漁 港 の 夕	" (")	家 鴨	(昭和初期)
夕 顔	1951 (" 26)	竹 と す ず め	(")
洋 蘭	1952 (" 27)	か け す	(")
花	1953 (" 28)	牡 丹 花	(")
花 籠	1954 (" 29)	秋 趣	(")
残 照	" (")	牽 牛 花	(")
初 秋	1955 (" 30)	漁 家 の 夕	1945～1955 (昭20～30頃)
晩 秋	" (")	嘉 紫 牡 丹	1954 (" 29)
魚 と 果	1956 (" 31)		1975 (" 50)
花	1957 (" 32)		

作 品 名	制 作 年	作 品 名	制 作 年
あ 桐		写 生 帖	1912頃(明45頃)
游 ぎ		鵲 図	
游 雨	1977 (昭52)	伴大納言絵詞第三卷(模写)	1910 (明43)
松 魚	1978頃(昭53頃)	絵 師 草 子 (模写)	
朝 魚	1980頃(" 55頃)	随 身 庭 騎 絵 卷 (模写)	
草 に 山	1982頃(" 57頃)	将 軍 塚 絵 卷 (模写)	
花 写	1982 (" 57)	スケッチ・カット・舞扇画等	
	1911 (明44)		



展 示 会 場



展 示 会 場

第10回 千葉県移動美術館

会 場 ①丸山町中央公民館
 ②浦安市中央公民館
 会 期 ①昭和61年9月26日(金)～10月14日(火) (19日間)
 ②昭和61年10月17日(金)～10月30日(木) (14日間)
 展示点数 ①41点 ②41点
 入場者数 ①1,721人 ②1,230人

館所蔵作品の移動展覧を行い、優れた美術作品を身近に鑑賞できる機会を提供した。



第10回 千葉県移動美術館
 昭和61年9月26日(金)～10月14日(火) (19日間)
 昭和61年10月17日(金)～10月30日(木) (14日間)
 丸山町中央公民館
 浦安市中央公民館
 展示点数 ①41点 ②41点
 入場者数 ①1,721人 ②1,230人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
《日本画》		星 襄 一 王 の 樹	
島 多 訥 郎	秋	牛 玖 健 治	ゆ う え ん ち
横 尾 芳 月	夕	深 沢 幸 雄	古 い 楽 譜
立 石 春 美	狗	池 田 満 寿 夫	マ ー ガ レ ッ ト の 庭
渡 辺 学	川	《彫 刻》	
岩 崎 巴 人	風 の 中 の 萩	大 須 賀 力	倚 る
松 尾 敏 男	原	山 本 正 道	ヴ ァ ー ジ ニ ア
高 畑 郁 子	メ ス テ ィ ー ソ の 女 達	山 崎 英 五	地 を 這 う も の ど も
《洋画》		《工 芸》	
浅 井 忠	農 婦	香 取 秀 真	鳩 香 炉
石 井 柏 亭	聖 フ ラ ン チ ェ ス コ 寺 院	津 田 信 夫	子 迷 家 鴨
梅 原 龍 三 郎	竹 窓 読 書 図	宮 之 原 謙	象 嵌 磁 鉢
田 中 善 之 助	パ リ の 女	土 肥 刀 泉	釉 彩 両 耳 花 瓶
原 勝 郎	京	香 取 正 彦	朧 銀 玉 錯 花 瓶
霜 鳥 之 彦	秋	信 田 洋	黒 孔 雀 の 瓶
大 久 保 作 次 郎	丘 上 の 鐘 楼	山 本 正 年	瑞 光 器
林 倭 衛	岩 和 田 海 岸	津 田 永 寿	鳥 の 花
中 西 利 雄	南 仏 風 景	鈴 木 治 平	条 紋 金 彩 花 瓶
不 破 章	二	会 田 富 康	青 銅 双 鳥 置 物
小 堀 進	逆	《書》	
日 野 耕 之 祐	黒 い 雲	浅 見 喜 舟	ト 居
篠 崎 輝 夫	絵 馬 に よ る	大 石 隆 子	待 君
《版 画》		小 暮 青 風	天 麩
浜 口 陽 三	さ くら ぼ と 青 い 鉢		

県芸術祭

第38回 千葉県美術展覧会

今 期 昭和61年10月25日(土)～11月16日(日)
展示点数 2,059点
入場者数 28,824人
主 催 千葉県美術会等

昭和61年度 第38回県展資料 ()内は37回展

区分 部門	会員出品	公募出品	入選点数	陳列点数	新入選
日本画	94(90)	188(207)	167(187)	261(277)	59(36)
洋 画	193(178) (内遺作1)	618(642)	377(409)	570(587)	87(101)
彫 刻	57(57)	44(39)	42(36)	99(93)	15(12)
工 芸	66(63) (内遺作2)	166(148)	121(135)	187(198)	29(27)
書 道	197(193) (内遺作1)	1,038(969)	745(754)	942(947)	171(135)
計	607(581)	2,054(2005)	1,452(1521)	2,059(2102)	361(311)

美術を語る会

11月2日(日)午後1時～2時 美術館講堂
「シルクロード取材旅行記」
講師 千葉県美術会常任理事 篠崎 輝夫

昭和61年度 千葉県高等学校総合芸術祭

美術工芸書道作品展

会 期 昭和61年11月19日(木)～11月30日(日)
入場者数 5,278名
主 催 千葉県高等学校総合芸術祭実行委員会等

千葉県下の高等学校における美術、工芸、書道の授業及び部活動で制作した作品を広く紹介し、生徒の教材及び教師の指導・研究材料として役立てるとともに、一般県民に対して、現在の千葉県高等学校美術・工芸・書道教育についての理解と認識を深めることを目的として開催した。

参加校

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	129校	146校	275校
教 員	121校	40校	161校
計	250校	186校	436校

応募(展示)点数

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	667点	1 563点	2,230点
教 員	127点	40点	167点
計	794点	1,603点	2,397点

61年10月25日土
→11月16日日
▶午前9時より午後4時30分まで
休館日
10月23日 11月3日 16日

県展

会場/
千葉県立美術館

主催/
千葉県美術会
千葉県教育委員会
千葉県
千葉市教育委員会

日本画
洋画
彫刻
工芸
書道

38回

'86 千葉県高等学校総合芸術祭

連合音楽会
千葉県文化会館大ホール
11月15日出
PM1 30 PMS 00
11月16日出
AMS 30 PMS 00

美術工芸書道作品展
千葉県立美術館
11月19日(木)～11月30日(日)
AMS 00 PM4 30(閉館時)

演劇中央発表会
千葉県教育会館
11月22日出
AMS 00 PMS 00
11月23日(日)

第33回 千葉県勤労者美術展

会 期 昭和61年 9 月23日(火)～ 9 月28日(日)
展示点数 168点
入場者数 2,055人
主 催 千葉県労働者福祉協議会等

勤労者が余暇を利用して創作した美術作品（洋画・書道・写真）を発表する場を提供することにより、勤労者の教養を高め、文化の向上を図ることを目的とした。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数
116	168	116	168	168

第36回 千葉デザイン展

会 期 昭和61年 9 月23日(火)～ 9 月28日(日)
展示点数 58点
入場者数 1,791人
主 催 千葉商業美術協会等

グラフィックデザイン作品を公募し展示することにより、県内デザインの質的レベルアップを図るとともに、デザイン志向者の育成に努めた。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数
105	109	38	38	58

第9回 千葉県写真展

会 期	昭和61年 9 月17日(水)～ 9 月28日(日)
展示点数	131点
入場者数	4,540人
主 催	千葉県写真家協会・全千葉県写真連盟等

写真を通じて、本県の文化向上に資することを目的に、広く県民から作品を公募し、本県の観光、風俗、文化を紹介した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数
321	510	86	107	131

[illegible][illegible]

団 体 展

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第12回 武蔵野美術大学校友会展 千葉県支部展	61.4.8～4.13	油彩画・水彩画・日本画・陶芸	49
エテロクリット展	61.4.8～4.13	絵 画 ・ 立 体	37
第23回 全日本書の友会会 全総合書道大覧会	61.4.15～4.20	書	1,340
千葉等迦展	61.4.22～4.27	絵 画	50
第17回 表 美 展	61.4.29～5.5	表 装 ・ 額 装 ・ 屏 風	97
第13回 千葉新協展	61.4.29～5.5	水 彩 画 ・ 油 彩 画 ・ 写 真	79
第6回 千葉美術工芸会	61.4.29～5.11	工 芸	77
第12回 歩 会 彫 刻 展	61.4.29～5.11	彫 刻	45
日本書道ペン字教育記念展	61.5.7～5.11	書 ・ ペ ン 字	500
第10回 墨 の 県 展	61.5.13～5.18	水 墨 画	371
第31回 二科会千葉支部展	61.5.20～5.25	油 彩 画 ・ 水 彩 画	963
二紀会千葉県支部展	61.5.20～5.25	油 彩 画 ・ 彫 刻	40
鳳 声 会 書 作 展	61.5.27～6.1	書	72
第6回 匠 の 会 展	61.5.27～6.1	油 彩 画	158
千葉市アマチュア美術展覧会	61.5.27～6.1	絵 画 ・ 書 ・ 写 真 ・ 彫 刻 ・ 工 芸	430
第11回 関 東 全 展	61.6.3～6.8	絵 画	177
第13回 千虹会日本画展	61.6.3～6.8	日 本 画	30
第9回 千葉一陽展	61.6.10～6.15	油 彩 画	70
第12回 貌 展	61.6.10～6.15	絵 画 ・ 写 真 ・ 工 芸	50

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
千葉県小中児童生徒書き方習字展	61.6.17～6.22	書 ・ ペ ン 字	1,500
千葉県書道協会展	61.6.17～6.22	書	285
新 塊 樹 社 展	61.6.17～6.22	油 彩 画	99
日 本 画 四 季 展	61.6.17～6.29	日 本 画	71
第19回 千葉県高等学校合同写真展	61.6.24～6.29	写 真	505
第11回 葉 美 会 展	61.6.24～7.6	油彩画・日本画・版画・写真	73
第9回 精 鋭 展	61.6.24～7.6	油 彩 画 ・ 彫 刻	81
第4回 明日を拓く教育美術展	61.7.1～7.6	油 彩 画 ・ 水 彩 画 ・ 工 作	2,500
水彩連盟千葉支部展	61.7.1～7.6	水 彩 画	62
第18回 千葉市水墨画同好会連合会展	61.7.8～7.20	水 墨 画	516
第56回 習 美 会 初 夏 展	61.7.22～7.27	日本画・油彩画・水墨画	116
第7回 龍峽書道会千葉県人展	61.7.22～7.27	書	530
日本水彩画会千葉県支部展	61.7.22～7.27	水 彩 画	53
第6回 中央美術協会千葉支部展	61.7.29～8.3	日本画・水彩画・油彩画・版画	46
第6回 千葉サンケイ現代洋画展	61.7.29～8.10	洋 画 ・ 版 画	208
第15回 写 真 千 葉 県 展	61.8.5～8.17	写 真	222
第10回 尽 墨 会 書 作 展	61.8.12～8.17	書	33
第16回 い て ふ 会 彫 刻 展	61.8.12～8.24	彫 刻	41
第11回 子 供 と 教 師 の 作 品 展	61.8.19～8.24	油 彩 画 ・ 水 彩 画 ・ 版 画 ・ 工 作	421

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第6回 日本春秋書院展 千葉県書道連盟展	61.8.19～8.24	書	110
第14回 千葉市教職員美術展覧会	61.8.26～8.31	洋画・陶芸・立体	116
刻 字 千 葉 展	61.8.26～8.31	刻 字	76
第4回 日中友好書道展覧会	61.9.2～9.7	書	1,750
第16回 新構造千葉支部展	61.9.9～9.15	油彩画・工芸・写真	132
デンマーク・手作りじゅうたん タピストリー展覧会	61.9.9～9.15	じゅうたん・タピストリー	42
静雅書道会小中学部千葉地区展	61.9.17～9.21	書	196
日本書道学会千葉県連合会書道展	61.9.17～9.21	書	279
第24回 新世紀美術協会千葉支部展	61.9.23～9.28	油彩画・水彩画	75
昭和61年度第29回 千葉市小中 養護学校児童生徒作品総合展覧会	61.9.30～10.5	図工美術・理科・家庭科作品	7,600
第18回 ファンシー洋画展	61.10.7～10.12	油 彩 画	97
第13回 文化書道千葉県連合会 公募展覧会	61.10.7～10.12	書・刻字・篆刻	926
第6回 二科会写真部千葉支部写真展	61.10.7～10.12	写 真	143
第26回 白扇書道会展	61.10.14～10.19	書	16,904
第31回 こども県展	61.12.2～12.14	絵 画	13,000
第9回 千 葉 展	61.12.16～12.25	絵 画 ・ 立 体	126
第23回 登龍社宮坂会書初展	62.1.6～1.11	書	493
書 星 選 抜 展	62.1.6～1.11	書	222
千葉県大学美術連盟展	62.1.6～1.11	絵 画	89

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
は れ 展	62. 1. 13～ 1. 18	絵 画 ・ 立 体	19
第14回 現代書道50人展・現代書壇代表名作展・千葉書壇秀抜展・千葉書壇新進展	62. 1. 20～ 1. 25	書	410
第4回 明るい社会づくり ポスターコンクール展覧会	62. 1. 20～ 1. 25	ポ ス タ ー	500
子 ど も 造 型 展	62. 1. 27～ 2. 1	絵 画 ・ 工 作	850
第4回 千葉県医師会美術展	62. 1. 27～ 2. 1	絵 画 ・ 工 芸 ・ 書 ・ 写 真	133
千葉敬愛短大書道展	62. 1. 27～ 2. 1	書	304
群 鷗 書 人 展	62. 2. 3～ 2. 8	書	81
第39回 千葉県小中高校書初展覧会	62. 2. 3～ 2. 8	書	929
親 子 絵 画 展	62. 2. 3～ 2. 8	水 彩 画 ・ 油 彩 画	134
千葉大学教育学部美術科卒業制作展	62. 2. 10～ 2. 15	絵 画	48
第21回 千葉大学学生書道展	62. 2. 10～ 2. 15	書	150
第10回 唱 和 会 展	62. 2. 17～ 2. 22	書	65
幕張北高校書道コース卒業制作展	62. 2. 17～ 2. 22	書	95
第12回 千葉県民写真展	62. 2. 17～ 3. 1	写 真	308
秋 耕 会 千 葉 支 部 展	62. 2. 24～ 3. 1	絵 画	78
和洋女子大学卒業展(雁鴻会書道展)	62. 2. 24～ 3. 1	書	50
昭和61年度第18回 千 葉 市 民 美 術 展 覧 会	62. 3. 3～ 3. 22	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 彫 塑 ・ 工 芸 ・ 書 ・ 写 真 ・ グ ラ フ ィ ッ ク デ ザ イ ン	1,146
第34回 書 星 教 育 部 展	62. 3. 24～ 3. 29	書	1,364

教育・普及

美術講演会

(1) 印象派以後の絵画

講 師 東京国立近代美術館次長 富山秀男

期 日 昭和61年 6 月29 日(日)

参加者 97 人

15世紀から19世紀までに発達してきた理屈の通っていた絵画の歴史が印象派の出現により曲がり角を示した。

明暗による表現法が、遠近法と同じように19世紀まで続いてきたが、写実主義的表現は大体行きつくところまで発展し、最後に残ったのが光の表現である。

18世紀初頭、プリズムにより7色の分析を得た。ムラサキと同色のアイを省いても6色となる。色彩の場合6色を混合すると限りなく黒に近くなる。白にはならない。光線と色彩の相違である。印象派にとって、画家にとって大問題である。

また、色には補色の関係がある。印象派はこの補色の関係をうまく使い、明るい自然を描くことができることに気付いた。

印象派がこれまでの表現上の要素のうち、守ったものは色彩・空気・線の三つの遠近法のうち、線遠近法だけであった。物の丸味、物質感を出す、細部を描く、個有色を出す、以上の四つを否定した。更に印象派は色彩分割を特色とした筆触併置というテクニックを用い、自然の明るさをキャンパスの上に再現した。絵の具を重層させず併置させたという革命的な事項があった。

19世紀以後の画家は意識的であると無意識的であるとを問わず色彩関係、補色というものを知らず絵をかいている画家はいなくなった。



(2) 浜口陽三の版画

講 師 国立国際美術館長 三木多聞

期 日 昭和61年 8 月24 日(日)

参加者 106 人



浜口の版画は、いわゆる版画とはちがうと感じられている方もいるだろう。版画を制作された方もいるだろうが、版画は油絵にくらべ脇役のようにとらえられた時期もかつてはあった。日本では浮世絵版画という19世紀フランスに影響を与えた版画芸術がある。

1951年サンパウロでビエンナーレが行われ、この時の賞が小林清と駒井哲郎である。なぜ版画が賞をとったのか日本ではわからなかった。ルガノ展では、駒井哲郎、棟方志功、第3回・第4回では棟方志功。日本版画のとらえ方は、棟方は土着型、駒井の場合はヨーロッパ型といえる。

1957年サンパウロビエンナーレでは、浜口が受賞、第1回東京国際ビエンナーレでは、浜口が文部大臣賞(大賞)であった。戦後美術の国際交流が盛んになり、版画は輸送にもハンディがなく、現在も質量ともに最も高い。浜口の果たした役割は大きい。

浜口は美校の彫塑科に入ったがアカデミックな教育になじめず渡欧している。44才の時また渡欧し、銅版画をはじめている。奔放な浜口が制約の多い銅版画、特にミクロの世界のメゾチントを選んだことはおもしろい。

彼の世界が独得に花開いていると思う。

このメゾチントをしたということで評価が高く、エンサイクロペディア・ブリタニカでもメゾチントの項に浜口の名がある。

彼の作品は説明的なところを排除し、ストレートに表現している。「てんとう虫」のような小さな虫の一匹からひとつの世界が生み出されている。浜口芸術の特徴である。

浜口の版画は版画全体の中でいえば、保守的、格調高い位置をしめしている。

美術を語る会

第1回 昭和61年7月13日(日)

話題提供者 洋画家 松沢茂雄

テーマ 私の好きな巨匠たち

参加者 82人

印象派、新印象派、後期印象派と大体同時代であるが、普仏戦争、パリコミュンといういわば混乱の時代。18世紀がブルジョア時代とすれば19世紀は庶民の時代になる。この時代にたくさんのものが出てくる。そのひとつに印象派の運動があったと解釈すればよいと思う。

印象派の技巧に筆色混合という画面の上で色を混合してゆく重色という方法である。新印象派となると、人間の目の中で混合される網膜混合といっているが、科学的表現というか、色を併置して置くと絵になるという絵画性を強調。後期印象派はセザンヌ、ゴッホ、ゴーギャンの3人。後期印象派という絵画運動としてはなかった。この点が印象派とは異なる。非常に構築されたというか、光の表現、物質感に表現がかえられてゆく。後の立体派にも影響を及ぼす。

新しい作家というか、それ以後生れた作家の方が技術的にはいいかも知れないが、その魅力は、新しい技術がどういう風に生れるか。その創造性にひかれる。

第2回 昭和61年9月14日(日)

話題提供者 版画家 深沢幸雄

テーマ 浜口陽三の表現方法

参加者 56人

浜口の父は15才で家を出て1人で世界一周をした。また南画を習った。ガンになった時もう一度世界一周してニューヨークで亡くなった。浜口はそういうスケールの大きなところを受け継いでいる。

本来の銅版画は非常にクールだが、彼はとてもやわらかい。決してメゾチントの技法にこだわらない。作品「スペイン風油さし」は非常に気に入ってもう一度つくろうとしたができなかった。パリの画廊に気に入られて銅版画を本格的にはじめた記念作品である。「たにし」、小さな不思議な世界だ。ヨーロッパ人の気付かなかった世界だ。「蝶」、彼は心の優しい人だ。私には蝶々二匹はかけない。等々スライドを通しての作

品解説があった。

また、メゾチントは普通全面にベルソーをかけ、白くした部分をスクレーパー、パニッシャーでみがく。だが彼は必ずしもそうした型にとらわれない。天衣無縫の性格もある。

作品、技法を通して参加者に語りかけてくれた。

第3回 昭和61年10月5日(日)

話題提供者 日本画家 五十嵐幹

同 齋藤 惇

テーマ 富取風堂の人と芸術

参加者 77人

私が初めて先生のお宅を訪ねた時、座蒲団をすすめられた。目上の人の前で使ったことのない私は着座しなかった。すると先生も着座せず話をしなかった。若輩の者にも礼を尽す態度には恐縮した。

「私は横着者だ」という先生は、模写をよく勉強していた。模写とは何かをよく知っていた。写生もまたよくしていた。横着者にできることだろうか。

先生は平生温厚な人であったが、作品に対しては非常に厳しい人であった。

古さをおさえたいうえの新しさを持った作家であった。もっと早くお会いできたらと思うと、まことに残念であった。

五十嵐氏から語られた富取風堂の人となりであった。

また、齋藤氏からは「漁家春光」をはじめとし、14点の作品をスライドによる解説があり、作品の表現方法の多様さ、卓越性、戦前は絹本、戦後は紙本が多い等専門的な指摘があった。

第4回 昭和61年11月23日(日)

話題提供者 千葉大学教授 太田洋三

テーマ 高校生年代における造形表現

参加者 22人

本来、造形・美術の活動は対象に感じ興味関心を示すことから始まるもので、対象に対して美しいとか心に残るものを感じて、それを表現してみたいという人間の本能的な活動のはずである。感動や関心が伴わない表現というものがあれば、いわゆるやらせとなって、結果として表現技法への偏重や、画一的表現へと向かうことになろう。

とかく、児童・生徒の個性的なものは、過去の指導に照らして戸惑いを感じたり、無視しがちな傾向も見られた。造形の活動では技法的なうまさより個性的な感受や表現のよさを賞揚すべきであろう。

これからは、表現の本質とは無関係の、表現法の未熟さを問題にするのではなく、美しさへの個性的な感じや感銘を重視し、それ等が表現につながる指導のあり方が問題にされるべきものと考えられる。

第5回 昭和62年2月8日(日)

話題提供者 陶芸家 三橋英作

テーマ 陶芸の美とその特質

参加者 38人

学生の頃市川に下宿し、そこで焼物に出会った。先

代はたいへん苦勞したという話をきいている。30才の時、先代が亡くなり窯を継いだ

作家の世界には生活の保証はない。かつて宮之原謙先生から「本業を忘れてはだめだよ」と励まされた。

焼物は土をこね、乾燥させ、素焼き、釉、本焼、それぞれの過程で注意が必要であり、絵画などの創作とはまた異なる。

さらに三橋氏は、この会のために持参した信楽焼、備前焼、青磁等の作品を手にとって肌あいをみるよう、直接的な指導のうちに、それぞれの歴史を語りながら、窯と温度、焼上りの色、「赤という色は、黒、黄、褐色など様々な色に化けてしまう」等、制作者ならではの体験を語りつつ、個々の作品について参加者の質問に応じ閉会後も数人が残り語り合いが続いた。



第 1 回



第 2 回



第 3 回



第 5 回

第10回 美術館夏季大学

期 日 昭和61年6月22日(Ⅰ)・9月7日(Ⅱ)

参加者 201人

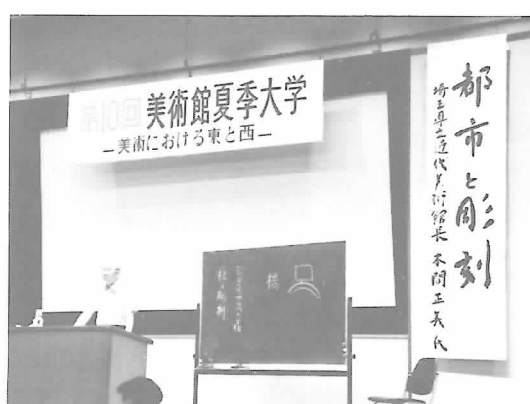
テーマ 美術における東と西

内容及び講師

日 時	内 容	講 師	日 時	内 容	講 師
6月22日(Ⅰ)	午前 日本絵画における洋風の影響	1. 江漢から由一へ 2. 芳崖と大観 3. アールヌーボーと日本 4. 御舟の写実と装飾	9月7日(Ⅱ)	午前 水墨画における中国と日本	1. 中国絵画と日本絵画はどこが違うか 2. 中国における空間表現の展開 3. 日本側の対応の実体 4. 写実と装飾の葛藤
	午後 二十世紀のアメリカ絵画—近代から現代へ—	1. アーモリ・ショーとアメリカ近代美術の発端 2. 1930年代の社会的リアリズム 3. 第二次大戦後の抽象表現主義(1950年代) 4. ポップ・アート(1960年代)とそれ以後		午後 都市と彫刻	1. 日本における都市と彫刻のむすびつき 2. 都市空間の性格 3. 彫刻取得の方式 4. 共有の哲学から共同体へ
		細野正信 (東京国立博物館建築室長)			戸田禎佑 (東京大学教授)
		村木 明 (美術評論家)			本間正義 (埼玉県立近代美術館長)



9月7日午前



9月7日午後

実 技 講 座

(1) 日本画入門講座

期 日 昭和61年 5 月13日(火)・14日(水)・15日(木)・16日(金)・21日(水)・22日(木)・23日(金) 7 日間

講 師 県美術会理事 宮沢一雅

受講者数 17人

内 容 花、くだもの、人物等を描き、用具、材料の取り扱い等、日本画の基礎的な技法について学習した。

(2) 日本画研修講座

期 日 昭和61年11月 5 日(水)・ 6 日(木)・ 7 日(金)・11日(火)・12日(水)・13日(木)・14日(金) 7 日間

講 師 県美術会理事 松原道男

受講者数 17人

内 容 日本画入門講座を終了した者、又は同程度の者を対象にして、静物や各自の持参したスケッチ等により、技術面に重点を置いて学習した。

(3) デッサン入門講座

期 日 第1期 昭和61年 5 月27日(火)・28日(水) 2 日間

第2期 昭和61年 6 月25日(水)・26日(木) 2 日間

第3期 昭和61年11月 6 日(水)・ 7 日(金) 2 日間

講 師 第1期 千葉大学教授 戸田 健夫

第2期 県美術会理事 伊牟田經正

第3期 県美術会理事 五十嵐光昭

受講者数 第1期 24人

第2期 34人

第3期 27人

内 容 人物、静物等のデッサンをし、形のとり方、明暗、立体感、動き、質感、空間感など、デッサンの基本的な技法について学習した。

(4) 洋画研修講座

期 日 第1期 昭和61年 5 月24日(土)・25日(日)・30日(金)・31日(土) 4 日間

第2期 昭和61年 7 月 1 日(火)・ 5 日(土)・15日(火)・19日(土) 4 日間

第3期 昭和61年 9 月18日(水)・19日(金)・25日(水)・26日(金) 4 日間

講 師 第1期 県美術会理事 羽生智樹

第2期 千葉大学教授 太田洋三

第3期 県美術会常任理事 天野三郎

受講者数 第1期 33人

第2期 33人

第3期 31人



日本画研修講座



デッサン入門講座

内 容 洋画入門講座の修了者又は同程度の者を対象にして、第1期、第2期は静物とコスチューム、第3期は静物を題材とし、より幅広い表現について学習した。

(5) 版画入門講座

期 日 昭和61年 8 月 3 日(日)・5 日(火)・6 日(水)・7 日(木)・8 日(金)・9 日(土)・10 日(日) 7 日間

講 師 国画会会員 平野正房

受講者数 28人

内 容 銅版画を通して、材料や用具、エッチング、ドライポイントなどの各技法、刷りの技法等、基礎的な内容を学習した。

(6) 彫塑入門講座

期 日 昭和61年 5 月 29 日(木)・30 日(金)・6 月 3 日(火)・4 日(水)・5 日(木)・10 日(火)・11 日(水) 7 日間

講 師 県美術会常任理事 久保田俊通

受講者数 18人

内 容 木彫の制作を通して、レリーフ・丸彫りなどの表現技法、さらに用具の取り扱い方など彫刻の基礎的な内容を学習した。

(7) 陶芸入門講座

期 日 昭和61年 6 月 24 日(火)・25 日(水)・26 日(木)・7 月 17 日(木)・30 日(木) 5 日間

講 師 千葉美術工芸会会員 市川富幾一

受講者数 33人

内 容 カップ、さら、茶わん等の制作を通して手びねりの技法、釉薬の原料と発色など、陶芸の基礎について学習した。

(8) 陶芸研修講座

期 日 昭和61年 9 月 2 日(火)・5 日(金)・30 日(火)・10 月 3 日(金)・7 日(火)・31 日(金) 6 日間

講 師 県美術会常任理事 三橋英作

受講者数 33人

内 容 陶芸入門講座を修了した者、又は同程度の者を対象にして、茶碗・壺・花瓶等を2回にわたり制作し、ロクロの技法、窯づめ、焼成についても学習した。

(9) 金工入門講座

期 日 昭和61年 9 月 9 日(火)・10 日(水)・17 日(水)・18 日(木)・19 日(金) 5 日間

講 師 日本クラフトデザイン協会会員 佐藤叔孝

受講者数 16人

内 容 銅板を素材として、金属の特性を生かした鍛金の基礎的な技法をはじめ、着色の技法などについて学習した。



彫塑入門講座



金工入門講座

(10) 七宝焼入門講座

期 日 昭和61年 9 月27日(土)・28日(日) 2 日間

講 師 金工工芸家 金光淳子

受講者数 29人

内 容 掛時計の文字板を題材として、七宝焼の材料や技法、さらに焼成の方法について学習した。

(11) 書芸入門講座

期 日 昭和61年 6 月24日(火)・7 月 1 日(火)・2 日(水)・8 日(火)・22日(火) 5 日間

講 師 県美術会理事 宇津木雀聲

受講者数 27人

内 容 楷書、行書、草書、など各書体の練習を通し、書芸の基礎的な学習をした。

(12) 書芸研修講座

期 日 第 1 期 昭和61年 7 月19日(土)・20日(日) 2 日間

第 2 期 昭和61年11月13日(木)・14日(金) 2 日間

講 師 第 1 期 県美術会常任理事 種谷扇舟

第 2 期 県美術会常任理事 浅見錦龍

受講者数 第 1 期 31人

第 2 期 22人

内 容 書芸入門講座を修了した者又は同程度の者を対象として、条幅の書き方を中心に様々な表現について学習した。

(13) てん刻入門講座

期 日 昭和61年 7 月23日(水)・24日(木)・25日(金) 3 日間

講 師 県美術会会員 鈴木知秋

受講者数 31人

内 容 受講者の名前を印材に刻み、印刀などの用具や材料の使い方等について、基礎的な学習をした。

(14) てん刻研修講座

期 日 昭和61年11月26日(水)・27日(木)・28日(金) 3 日間

講 師 県美術会会員 鈴木知秋

受講者数 31人

内 容 てん刻入門講座修了した者又は同程度の者を対象として、題材を自由に選び、てん刻技法について学習した。



書芸入門講座



てん刻入門講座

千葉県立美術館友の会（葉美会）

1. 運営方針

- (1) “みる・かたる・つくる” 美術活動に積極的に参加する。
- (2) 組織の拡充と活動の充実をはかる。

2. 組 織

(1) 会員数 907名

(2) 役 員

顧問	始	関	妙
名誉会員	松	戸	節
“	市	原	正
“	高	橋	在
会長	鈴	木	民
副会長	江	尻	幹
“	平	野	馨
“	新	城	瑠
監事	小	室	守
“	三	宅	寿
“	林	康	美
理事	安	田	高
“	中	島	博
“	押	尾	る
“	平	野	禎
“	大	藤	元
“	石	井	三
“	青	木	敬
“	中	村	秀
“	大	里	幸
“	松	本	了
“	足	立	衛
“	長	倉	忠
“	鈴	木	豊
“	野	沢	弘
“	実	藤	充
“	中	村	哲
“	高	村	照
評議員	大	高	鐘
“	木	内	俊
“	安	達	園

評 議 員	横	沢	正	雄
“	高	橋	喜	一
“	芳	垣	良	一
“	加	藤	信	子
“	西	田		葆
“	藍	野	正	和
“	植	木		照
“	広	瀬	慶	子
“	花	田	之	宏
“	渡	辺	美	智
“	米	倉	澄	夫
“	林		美	貴
“	日	暮	幸	枝
“	酒	井	千	子
“	近	藤	愛	子
“	佐	藤	裕	子
“	今	井	忠	昭
“	今	井		博
“	日	色	義	忠
“	落	合	芳	枝
“	須	藤	瑛	子

3. 事 業

- (1) 友の会だより“しおさい”の発行、年5回、各1,200部発行し、会員等に配布した。
- (2) 第11回葉美会展の開催
会 期 昭和61年6月24日(火)～7月6日(日)
展示点数 73点
会員が作品を発表し、お互いの作品を鑑賞しながら語り合うことにより、創作の楽しみを分かち合う機会とした。
- (3) 館事業への協力
館に協力して、美術鑑賞の旅やボランティア解説会などを行ったほか、県民アトリエ事業に積極的に参加した。

4. 実 技 講 座

期 日	第1期	4月23日(水)・24日(木)・30日(水)・5月1日(木)・7日(水)・8日(木)	6日間
	第2期	6月17日(火)・18日(水)・7月8日(火)・9日(水)・22日(火)・23日(水)	6日間
	第3期	8月2日(土)・3日(日)・5日(火)・6日(水)・8日(金)・9日(土)	6日間
講 師	第1期	県美術会常任理事 篠崎輝夫	
	第2期	洋画家 松沢茂雄	
	第3期	県美術会理事 渡辺 晋	
受講者数	第1期	49人	
	第2期	35人	
	第3期	30人	
内 容	第1期は静物、裸婦、第2期は裸婦、第3期はコスチュームを題材にして油彩の制作を通し、洋画の基礎的な技法等について学んだ。		

5. 美術鑑賞の旅

美術作品や文化財を訪ねながら、美を観る眼を養うことを目的に、美術鑑賞の旅を行った。

(1) 笠間日動美術館と笠間焼窯元を訪ねる旅

期 日 昭和61年7月11日(金)

参加者数 51人

春の美術鑑賞の旅は、茨城県笠間市に笠間日動美術館と笠間焼窯元を訪れた。日動美術館では特別展のシャガール展を鑑賞した。



笠間日動美術館にて

(2) 秋の箱根路逍遙

期 日 昭和61年10月16日(木)～17日(金)

参加者数 40人

秋の美術鑑賞の旅は、静岡県立美術館をはじめ、ベルナール・ヴェュッフェ美術館、箱根彫刻の森美術館などを見学した。両日共秋晴れに恵まれ、薄い雪化粧の富士山が美しかった。

昭和61年度事業一覧

月	み	る	かたる・つくる
4	常設収蔵作品展（第Ⅰ期）	4/1～6/8	
	第12回武蔵野美術大学校友会千葉県支部展	(4/8～4/13)	
	エテロクリット展	(4/8～4/13)	
	第23回全日本総合書道大展覧会	(4/15～4/20)	
	千葉等廻展	(4/22～4/27)	
	第17回表美展	(4/29～5/5)	
	第13回千葉新協展	(4/29～5/5)	友の会洋画入門(1)
	第12回歩会彫刻展	(4/29～5/11)	(4月, 5月)
	第6回千葉美術工芸展	(4/29～5/11)	
5	日本書道ペン字教育記念展	(5/7～5/11)	
	第10回墨の県展	(5/13～5/18)	日本画入門 (5月)
	第31回二科会千葉支部展	(5/20～5/25)	洋画研修(1) (5月)
	二紀会千葉支部展	(5/20～5/25)	デッサン入門(1) (5月)
	鳳声会展	(5/27～6/1)	彫塑入門 (5月, 6月)
	第6回匠の会展	(5/27～6/1)	
	千葉市アマチュア美術展覧会	(5/27～6/1)	
	第11回関東全展	(6/3～6/8)	
	第13回千虹会日本画展	(6/3～6/8)	
	第9回千葉一陽展	(6/10～6/15)	書芸入門 (6月, 6月)
	第12回藝展	(6/10～6/15)	デッサン入門(2) (6月)
6	特別展「ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち」	6/13～7/18	❑美術館夏季大学(1) 6/22
	千葉県小中児童生徒書き方習字展	(6/17～6/22)	友の会洋画入門(2)
	千葉県書道協会展	(6/17～6/22)	(6月, 7月)
	新槐樹社展	(6/17～6/22)	陶芸入門 (6月, 7月)
	日本画四季展	(6/17～6/29)	❑美術講演会(1) 6/29
	第19回千葉県高等学校合同写真展	(6/24～6/29)	
	第11回葉美会展	(6/24～7/6)	
	第9回精鋭展	(6/24～7/6)	
7	第4回「明日を拓く」教育美術展	(7/1～7/6)	◇美術を語る会(1) 7/13
	水彩連盟千葉支部展	(7/1～7/6)	洋画研修(2) (7月)
	第18回千葉市水墨画同好会連合展	(7/8～7/20)	てん刻入門 (7月)
	第56回習美会初夏展	(7/22～7/27)	書芸研修(1) (7月)
	第7回龍狭書道会千葉県人展	(7/22～7/27)	
	日本水彩画千葉県支部展	(7/22～7/27)	
	常設収蔵作品展（第Ⅱ期）	7/25～10/19	
	第6回中央美術協会千葉支部展	(7/29～8/3)	
	第6回千葉サンケイ現代洋画展	(7/29～8/10)	
	第15回写真千葉県展	(8/5～8/17)	版画入門 (8月)
	第10回尽墨会書作展	(8/12～8/17)	友の会洋画入門 (8月)
	第16回いてふ会彫刻展	(8/12～8/24)	
8	特別展「浜口陽三展」	8/16～9/15	
	第11回子供と教師の作品展	(8/19～8/24)	
	第6回日本春秋書院千葉県書道連盟展	(8/19～8/24)	◇美術講演会(2) 8/24
	第14回千葉市教職員美術展	(8/26～8/31)	
	刻字千葉展	(8/26～8/31)	
9	第4回日中友好書道展覧会	(9/2～9/7)	❑美術館夏季大学(2) 9/7
	第16回新構造千葉支部展	(9/9～9/15)	七宝焼入門 (9月)

月	み	る	か	た	る	・	つ	く	る
9	デンマーク手作りじゅうたん・タピストリー展覧会								
			(9 / 9 ~ 9 / 15)						
	房総の美術家シリーズ(16)「富取風堂展」		9 / 13 ~ 10 / 12						
	日本書道学会千葉県連合会書道展		(9 / 17 ~ 9 / 21)						
	静雅書道会小中学部千葉地区展		(9 / 17 ~ 9 / 21)						
	千葉県写真展		(9 / 17 ~ 9 / 28)						
	千葉デザイン展		(9 / 23 ~ 9 / 28)						
10	千葉県勤労者美術展		(9 / 23 ~ 9 / 28)						
	第24回新世紀美術協会千葉支部展		(9 / 23 ~ 9 / 28)						
	第10回千葉県移動美術館 (丸山町中央公民館)		9 / 26 ~ 10 / 14						
	昭和61年度第29回千葉市小中養護学校児童生徒作品総合展覧会		(9 / 30 ~ 10 / 5)						
	第18回ファンシー洋画展		(10 / 7 ~ 10 / 12)						
	第13回文化書道千葉県連合会公募展覧会		(10 / 7 ~ 10 / 12)						
	二科会写真部第 6 回千葉支部写真展		(10 / 7 ~ 10 / 12)						
11	第26回白扇書道会展		(10 / 14 ~ 10 / 19)						
	第10回千葉県移動美術館 (浦安市中央公民館)		10 / 17 ~ 10 / 30						
	第38回千葉県美術展覧会		(10 / 25 ~ 11 / 16)						
	千葉県高等学校総合芸術祭 美術・工芸・書道作品展		(11 / 19 ~ 11 / 30)						
	第31回こども県展		(12 / 2 ~ 12 / 14)						
	常設収蔵作品展 (第Ⅲ期)		12 / 5 ~ 3 / 31						
	第 9 回千葉展		(12 / 16 ~ 12 / 25)						
1	第23回登龍社宮坂会書初展		(1 / 6 ~ 1 / 11)						
	書星選抜展		(1 / 6 ~ 1 / 11)						
	千葉県大学美術連盟展		(1 / 6 ~ 1 / 11)						
	はれ展		(1 / 13 ~ 1 / 18)						
	第 4 回明るい社会づくりポスターコンクール展覧会		(1 / 20 ~ 1 / 25)						
	現代書道五十人展・現代書壇代表名作展・千葉書壇秀抜展・千葉書壇新進展		(1 / 20 ~ 1 / 25)						
	子ども造型展		(1 / 27 ~ 2 / 1)						
2	第 4 回千葉県医師会美術展		(1 / 27 ~ 2 / 1)						
	千葉敬愛短大書道展		(1 / 27 ~ 2 / 1)						
	群鷗書人展		(2 / 3 ~ 2 / 8)						
	策39回千葉県小中高校書初展覧会		(2 / 3 ~ 2 / 8)						
	親子絵画展		(2 / 3 ~ 2 / 8)						
	千葉大学教育学部美術科卒業制作展		(2 / 10 ~ 2 / 15)						
	第21回千葉大学学生書道展		(2 / 10 ~ 2 / 15)						
3	第10回唱和会展		(2 / 17 ~ 2 / 22)						
	幕張北高書道コース卒業制作展		(2 / 17 ~ 2 / 22)						
	第12回千葉県民写真展		(2 / 17 ~ 3 / 1)						
	秋耕会千葉支部展		(2 / 24 ~ 3 / 1)						
	和洋女子大学卒業展 (雁鴻会書道展)		(2 / 24 ~ 3 / 1)						
	昭和61年度第18回千葉市民美術展覧会		(3 / 5 ~ 3 / 22)						
	第34回書星教育部展		(3 / 24 ~ 3 / 29)						

太字は本館の企画展

利用状況

昭和61年度入館者一覧

種別 月	開館 日数	個 人			団 体						人数合計	備 考
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生			
					人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数		
4	26	6,151	330	1,351	133	4	0	0	680	6	8,645	
5	27	11,970	551	3,134	198	6	404	1	413	8	16,670	
6	25	18,100	1,498	3,521	628	17	62	2	439	3	24,248	特別展 「ヨーロッパ 近代絵画の 巨匠たち」
7	27	15,421	766	1,638	801	22	33	1	167	5	18,826	
8	27	11,081	751	2,865	153	5	0	0	120	3	14,970	特別展 「浜口陽三 展」
9	25	10,294	558	1,903	1,180	33	78	2	1,036	8	15,049	
10	23	17,715	582	5,998	1,483	36	120	1	1,122	13	27,020	
11	25	19,949	1,918	3,604	1,325	39	200	1	274	7	27,270	
12	21	10,639	196	6,953	435	13	0	0	1,001	11	19,224	
1	23	8,100	235	1,334	381	11	0	0	306	3	10,356	
2	24	7,587	587	1,964	232	9	118	3	349	4	10,837	
3	26	10,114	597	1,948	534	14	0	0	288	4	13,481	
計	299	147,121	8,569	36,213	7,483	209	1,015	11	6,195	75	206,596	

開館以来 総開館日数 3,605日 総入館者数 1,931,663人

地域別入館者状況

種別 月	開館 日数	県 内		県 外		外 国 (人)
		千葉市(人)	その他の県内(人)	東京都(人)	その他の県外(人)	
4	26	4,456	3,241	533	413	2
5	27	8,532	6,941	719	473	5
6	25	13,951	9,962	158	129	48
7	27	9,584	8,608	337	281	16
8	27	7,163	6,869	487	435	16
9	25	6,683	7,727	256	380	3
10	23	17,324	8,650	410	632	4
11	25	13,915	12,295	592	463	5
12	21	4,400	14,445	222	147	10
1	23	4,891	4,949	319	197	0
2	24	5,432	4,717	407	279	2
3	26	7,390	5,097	428	554	12
計	299	103,721	93,501	4,868	4,383	123
累計		197,222		9,251		123

作品貸出一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
浅井 忠 安井曾太郎 黒田重太郎	藁 屋 根 熱 海 附 近 浴 後	開館記念展第3部 近代日本の洋画と西洋一模倣と創造の一世紀	61.8.15～9.26 静岡県立美術館	静岡県立美術館
中西 利雄 〃	人 物 曇り日の離宮と駅	第50回新制作展	61.9.18～10.3 東京都美術館	新制作協会
石井 林 響 〃 〃 〃 〃	木 華 開 耶 姫 夜 道 を 駆 け る 人 唐 美 人 羅 浮 仙 女 梅 花 小 禽	特別展「今村紫紅・速水御舟・松岡映丘・鏑木清方…日本画の前衛たち」	61.10.2～11.30 東京都美術館 前期（61.10.2～10.26） 木 華 開 耶 姫 後期（61.10.30～11.30） 夜道を駆ける人 唐 美 人 羅 浮 仙 女 梅 花 小 禽	東京都美術館
椿 貞雄 〃 〃	自 画 像 八 重 子 像 横 堀 角 次 郎 兄 像	写真の系譜Ⅱ一大正期の細密描写	61.10.30～12.7 東京国立近代美術館 61.12.16～62.1.25 京都国立近代美術館	東京国立近代美術館
小 堀 進	高 原	「日展」回顧展	61.11.7～11.19 銀座松屋	読売新聞社
藤田 喬平	飾 宮 朱 雀	日本のガラス造形・昭和	61.11.9～12.21 北海道立近代美術館 62.1.10～3.22 東京都庭園美術館	北海道立近代美術館 東京都庭園美術館 朝日新聞社
安井曾太郎	熱 海 附 近	第30回安井賞展	62.2.27～3.18 西武美術館	毎日新聞社

刊行物一覧

区分	事業案内	千葉県立美術館報	千葉県立美術館年報	常設収蔵作品展			特 別 展					
				目 録			「ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち」			「浜口陽三展」		
				第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	図録	ちらし	ポスター	図録	ちらし	ポスター
規格	A 4	B 5	B 5	B 5	B 5	B 5	24×25.5	B 5	B 2・B 3	A 4 変	B 5	B 2・B 3
頁数	6	6	・54	6	6	4	156	2		146	2	
発行部数	25,000	各 3,000	1,000	3,000	3,000	3,000	1,000	30,000	1,500・500	800	20,000	1,000・500
備考	三ッ折 昭和62年度版	「みる・かたる・つくる Vol.13No1～4	昭和61年度版 ・本文						・車内 吊版			・車内 吊版

区 分	企 画 展			資 料 房 総 の 美 術 家 篇	従 征 画 稿	と 民 間 年 画 中 国 現 代 版 画
	「富取風堂展」					
	図 録	ち ら し	ポ ス タ ー			
規 格	A 4 変	B 5	A 2	B 5	A 5	B 4 変
頁 数	50	2		72	32	118
発 行 部 数	1,000	10,000	1,000	600	500	2,500
備 考						

日 誌 抄

- | | | | |
|---------|--------------------------------------|---------|--------------------------------------|
| 4 月 1 日 | 辞令交付 離着任式
常設収蔵作品展〈第Ⅰ期〉(6 月 8 日まで) | 14 | 美術を語る会(2) |
| 24 | 中国安徽教育学院周蕪副教授来館 | 26 | 第10回千葉県移動美術館(丸山町中央公民館, 10月14日まで) |
| 5 月15日 | 美術館友の会・韓国美術と文化財を訪ねる旅(5 月18日まで) | 10月 5 日 | 美術を語る会(3) |
| 6 月 2 日 | 美術館友の会役員会 | 7 | 美術館協議会 |
| 13 | 特別展「ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち」(7 月18日まで) | 16 | 美術館友の会・秋の美術鑑賞の旅(静岡県立美術館ほか, 10月17日まで) |
| 22 | 美術館夏季大学(1) | 17 | 第10回千葉県移動美術館(浦安市中央公民館, 10月30日まで) |
| 29 | 美術講演会(1) | 11月23日 | 美術を語る会(4) |
| 7 月 1 日 | 美術館友の会・春の美術鑑賞の旅(笠間市立美術館ほか) | 29 | 美術館友の会役員会 |
| 3 | 美術館資料審査委員会(1) | 12月 5 日 | 常設収蔵作品展〈第Ⅲ期〉(3 月31日まで) |
| 5 | 美術館研究員会議(1) | 6 | 糸賀茂夫副館長告别式 |
| 7 | 美術館協議会 | 12 | 昭和62年度展示室利用調整会議 |
| 13 | 美術を語る会(1) | 2 月 6 日 | 美術館研究員会議(2) |
| 25 | 常設収蔵作品展〈第Ⅱ期〉(10月19日まで) | 8 | 美術を語る会(5) |
| 8 月16日 | 特別展「浜口陽三展」(9 月15日まで) | 23 | 美術館友の会役員会 |
| 18 | 博物館実習 参加学生22名(8 月23日まで) | 27 | 美術館資料審査委員会(2) |
| 24 | 美術講演会(2) | 3 月11日 | 美術館協議会 |
| 9 月 1 日 | 防災訓練(1) | 23 | 防災訓練(2) |
| 7 | 美術館夏季大学(2) | | |
| 13 | 企画展・房総の美術家シリーズ(16)「富取風堂展」(10月12日まで) | | |

関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。
(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 でい酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。
(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他他の入館者の妨げになるような行為をすること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附 則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣 旨)

第1条 県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料等の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中 略)

別表第一抜粋

財産又は事務の種類	手数料	区 分	単 位	額
博 物 館	入館料	特 別 展 覧 会	1人1回 につき	500円 以内

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

(以下省略)

使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

第7条の2（省 略）

別表第六（抜粋）

行 事 等	施 設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者（介護者を含む。）又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

3. 展示室使用料

千葉県教育委員会教育長指令第121号

- 千葉県立美術館展示室等の使用料については、使用料及び手数料条例第5条第3項の規定により減免することとし、昭和62年4月1日から次表のとりの額とする。

区 分	室 名	面 積	使 用 料 (午前9時から午後5時まで)	
			観覧料無料、 物品を販売しない場合（減 免率3分の2）	観覧料有料、 物品を販売する場合（減 免率3分の1）
展 示 棟	第一展示室	438㎡	5,900円	11,700円
	第二展示室	400㎡	5,400円	10,700円
	第三展示室	469㎡	6,300円	12,600円
	第四展示室	403㎡	5,500円	11,000円
	第五展示室	824㎡	11,000円	22,000円
	第六展示室	330㎡	4,500円	9,000円
	第七展示室	567㎡	7,600円	15,200円
	全 展 示 室	3,431㎡	45,900円	91,700円
県 民 館	講 堂	259㎡	4,500円	9,000円
	研 修 室	75㎡	1,500円	3,000円

ただし、県及び県教育委員会が共催する場合並びに国又は他の地方公共団体の主催若しくは共催する行事に係る使用の場合は無料とし、県教育委員会が特に教育的、文化的意義を認め後援する行事に係る使用の場合は上記の半額とする。

- 千葉県立美術館展示室等の使用の許可に関する取扱いは、別紙「千葉県立美術館展示室等の使用許可に関する取扱要綱」によるものとする。

（別紙 要綱は本紙省略）

●千葉県立美術館友の会会則

（名 称）

第1条 本会は、千葉県立美術館友の会という。(略称、葉美会)

（事務所）

第2条 本会は、事務局を千葉県立美術館内におく。

（目 的）

第3条 本会は、千葉県立美術館（以下「館」という。）の活動に協力し、楽しいふんい気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深めることを目的とする。

（事 業）

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業をおこなう。

- 1 館の展覧会の見学鑑賞
- 2 講演会、講習会、研究会等
- 3 館外見学会
- 4 機関紙等の編集刊行
- 5 その他目的達成に必要な事業

（会 員）

第5条 本会は、会の目的に賛同するものをもって組織する。

1. 会員には次の特典がある。
 - ① 館の主催又は共催による展覧会観覧の優待
 - ② 美術館報「みる・かたる・つくる」ならびに友の会機関紙の配布
 - ③ 本会発行の図録等の配布及び割引購入
 - ④ 本会事業への参加
2. 本会活動に協力し、賛助会費を納めたものは賛助会員とする。

（会員の加入・退会）

第6条 本会に加入する場合は申込書に年会費を添えて事務局に提出するか、郵便振替にて申し込み、会員証の交付を受ける。退会の際は退会届を提出する。

（役 員）

第7条 本会に次の役員をおく。

会長1名 副会長3名(ただし内1名は美術館長があたる)

理事若干名 事務局長1名 監事3名 評議員若干名

1. 会長・副会長・理事・事務局長・監事の選出は評議員会において推挙する。

2. 役員の任期は2年とする。ただし再任は防げない。

（役員等の任務）

第8条 本会の役員の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表して会務を総理し、会議を召集し、その議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。
3. 理事は会の運営にあたる。
4. 事務局長は会務を処理する。
5. 監事は本会計の監査をする。

（顧問・名誉会員）

第9条 この会に顧問及び名誉会員をおくことができる。名誉会員は評議員会で推挙する。

（支 部）

第10条 地域、並びに職域ごとに20名以上の会員を有する場合は支部をおく。

（評議員会）

第11条 各支部より20名につき1名の制で推せんされた代表と賛助会員及び講座代表をもって評議員会を構成する。評議員会は毎年1回以上開き、事業計画、予算、役員の決定その他の重要方針を決議する。

（会 費）

第12条 本会の会費は次の通りとする。

1. 普通会員 上半期入会（4月～9月）2,000円
下半期入会（10月～12月）1,000円

（経 費）

第13条 本会の経費は会費、寄附金、事業収益金、その他の収入をもってあてる。

（会計年度）

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日におわる。

（職 員）

第15条 本会の事務職員は館に勤務する者以外から、会長が委嘱する。

（付 則）

1. 本会の会則は評議員会で出席者の過半数の同意を得なければ変更することができない。

2. 本会則は昭和50年6月28日より施行する。

- 昭和51年5月29日一部改正
- 昭和52年4月21日一部改正
- 昭和53年4月22日一部改正
- 昭和54年4月28日一部改正
- 昭和56年4月28日一部改正
- 昭和59年4月23日一部改正
- 昭和60年10月14日一部改正

昭和62年度展覧会

特別展

日本の名画100年

(新潟県美術館所蔵・旧大光コレクションより)

5月16日(土)～6月21日(日)

日本洋画の黎明期に活躍した浅井忠、小山正太郎。明治ロマン主義絵画の先駆者、青木繁。大正期の岸田劉生、万鉄五郎。天折の画家、佐伯祐三、前田寛治。戦前の洋画史に一時代を画した安井曾太郎、梅原龍三郎。戦後の斎藤義重、山口長男など近代日本洋画史を概観するとともに、東山魁夷、加山又造など日本画の名作を加え約80点を展覧します。

ピカソ展

(マリーナ・ピカソ・コレクション)

8月7日(金)～9月6日(日)

20世紀の美術界に偉大な足跡をのこしたスペインの画家パブロ・ピカソ(1881～1973)の孫娘マリーナ・ピカソ夫人のコレクションの中から未公開の作品を選び構成。少年時代から晩年までの油彩・素描・陶器など約160点を展覧します。

昭和62年度職員

館長	藤川 昶
副館長	保科 昌弘
庶務課	森田 保
課長	高石 卓
副主任(技)	岩瀬 隆司
主任主事	一杉 徹
主任主事	伊藤 和子
主任運転手	篠原 恒雄
主任用務員	長島 則子
学芸課	
文化財主事兼学芸課長事務取扱	中村 哲
文化財主事	中地 昭男
文化財主事	鈴木 喜久夫

常設展

常設 収蔵作品展

第Ⅰ期 4月1日(水)～5月10日(日)

第Ⅱ期 6月30日(火)～8月2日(日)

第Ⅲ期 9月12日(土)～10月18日(日)

第Ⅳ期 12月8日(火)～3月31日(木)

本館が所蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の作品を4期にわけて順次展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介します。

企画展

房総の美術家シリーズ —17—

青木滋芳展

9月12日(土)～10月11日(日)

東京生れで千葉市で育ち、千葉中学校時代以来、千葉美術会の創立等本県美術の発展に多大の貢献をされ、戦前戦後を通じ新文展・日展を主舞台に活躍した染色工芸家青木滋芳(1914～1983)の代表的作品を展覧します。

第2回現代日本具象彫刻展

8月7日(金)～9月6日(日)

県立青葉の森公園の彫刻広場に設置する作品を全国公募し、その入賞作品及び入選作品を展覧します。

第11回千葉県移動美術館

印旛村中央公民館 10月29日(水)～11月9日(日)

富津市富津公民館 11月12日(水)～11月24日(火)

優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくため、本館所蔵作品による展覧会を2会場で開催します。

事業班

学芸員	米田 耕司
〃	大久保 守
〃	藤川 正司
〃	小泉 幸代

普及班

文化財主事	高村 照夫
〃	田坂 浩
学芸員	金田 雅成
〃	相川 順子

利用案内

開館時間

開館時間 午前9時より午後4時30分まで

休館日 ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）

・年末年始（12月26日～1月4日）

・展示替等のため、必要があるとき。

入館料 ・無料（ただし、特別展は有料）

団体観覧 ・団体で来館されるとき、あらかじめ御連絡あれば館の概要や作品等の解説をします。

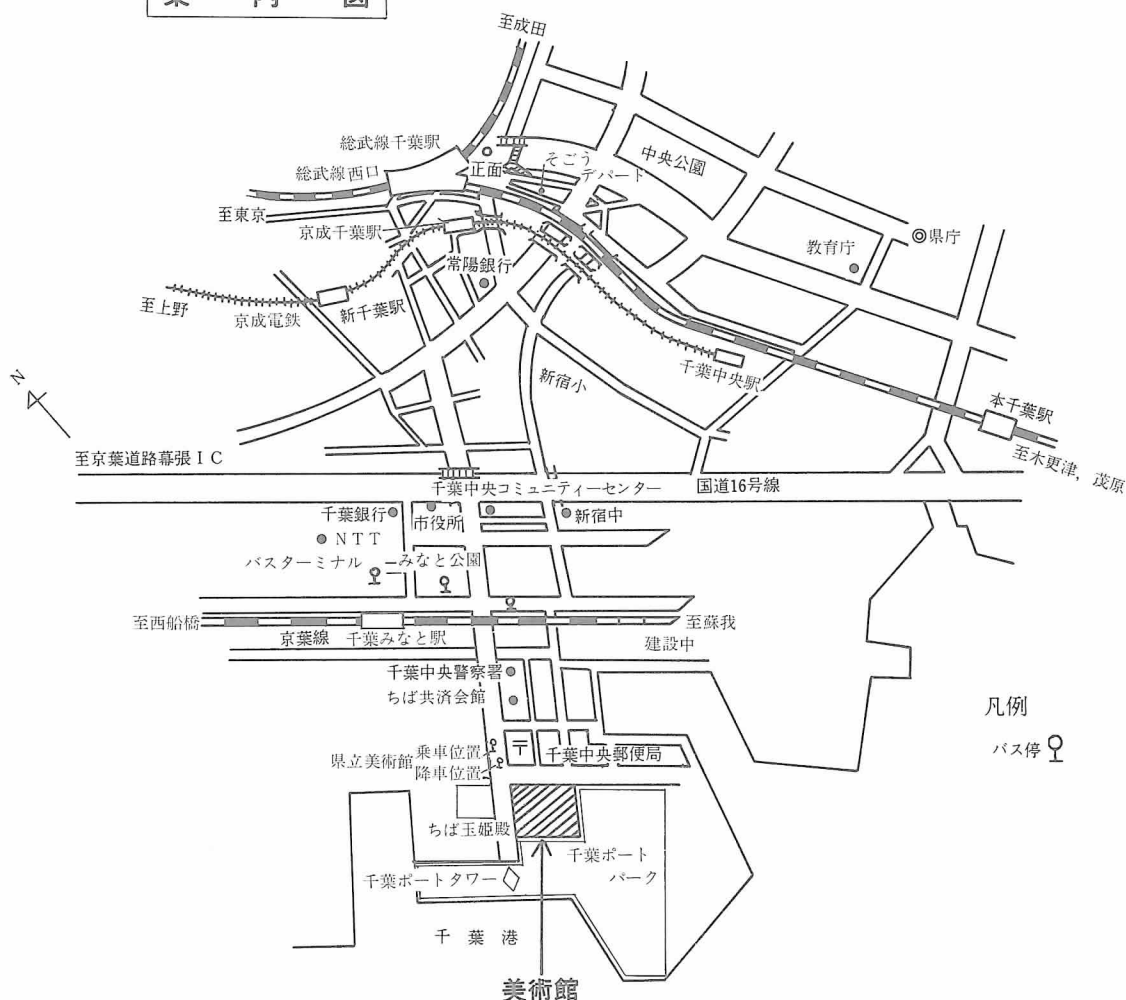
交通

●総武線千葉駅西口から徒歩23分。

●総武線千葉駅(千葉そごう前)⑨番のりばから「千葉ポートタワー」行バスにて15分、「県立美術館前」下車、徒歩1分。

●京葉線千葉みなと駅から、徒歩8分。

案内図



みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報（昭和61年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央港1-10-1

TEL 0472（42）8311（代表）

印刷 有限会社 正文社
